菜壽畫

二

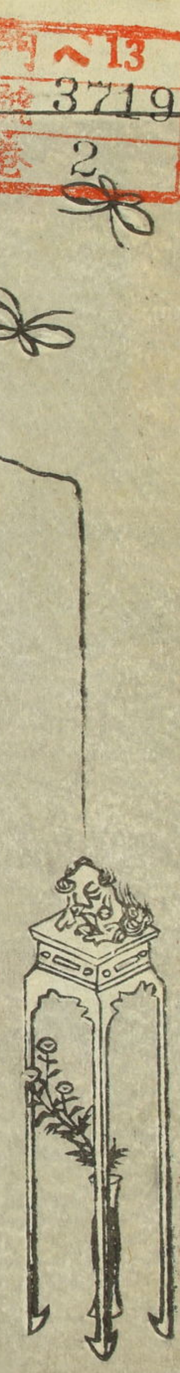
へ13
3719
2

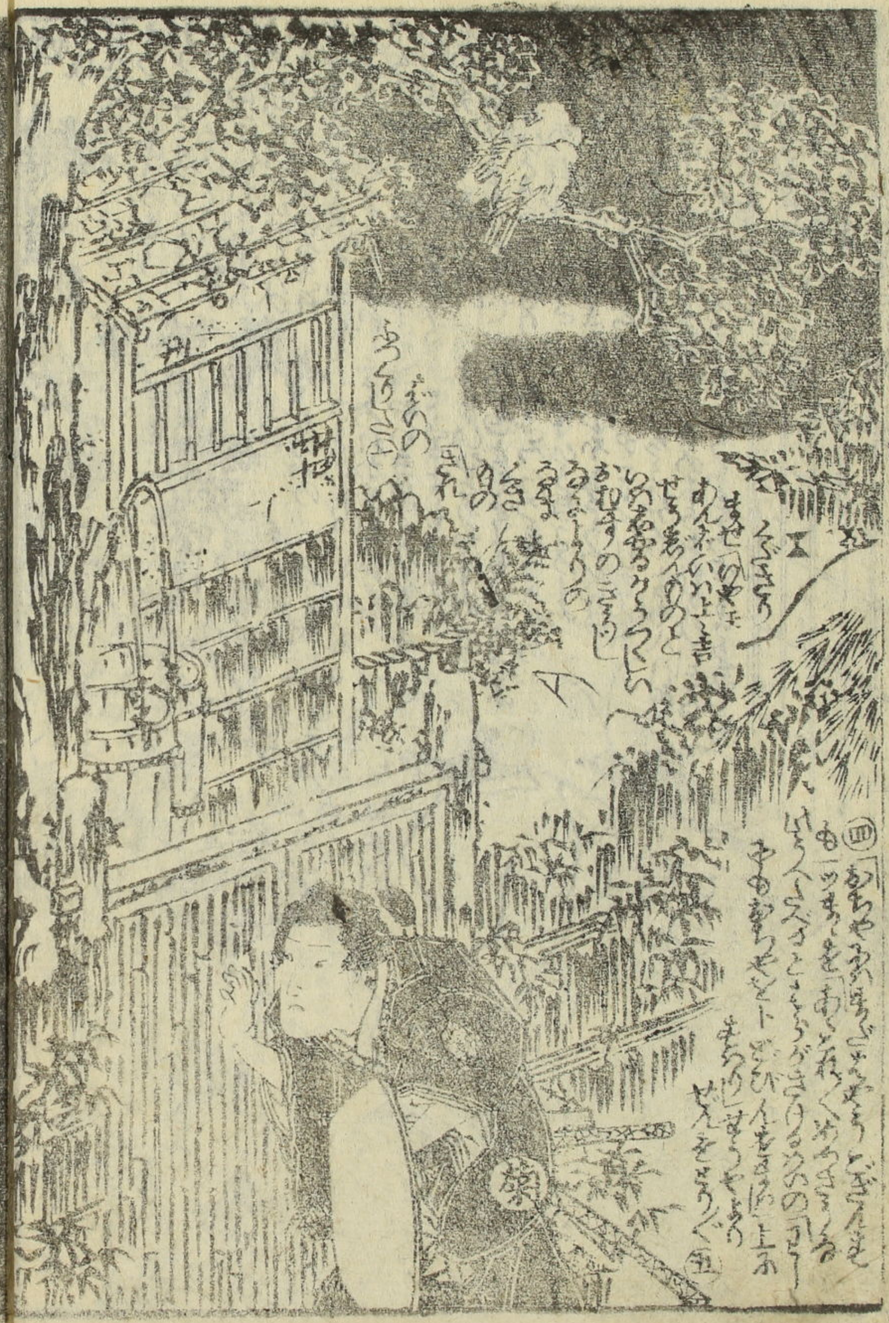
大吉
上

門へ13
3719
巻 2

業壽童こう扁盃 上之巻

京山作
栄久堂板
國貞画





京山人百樹作

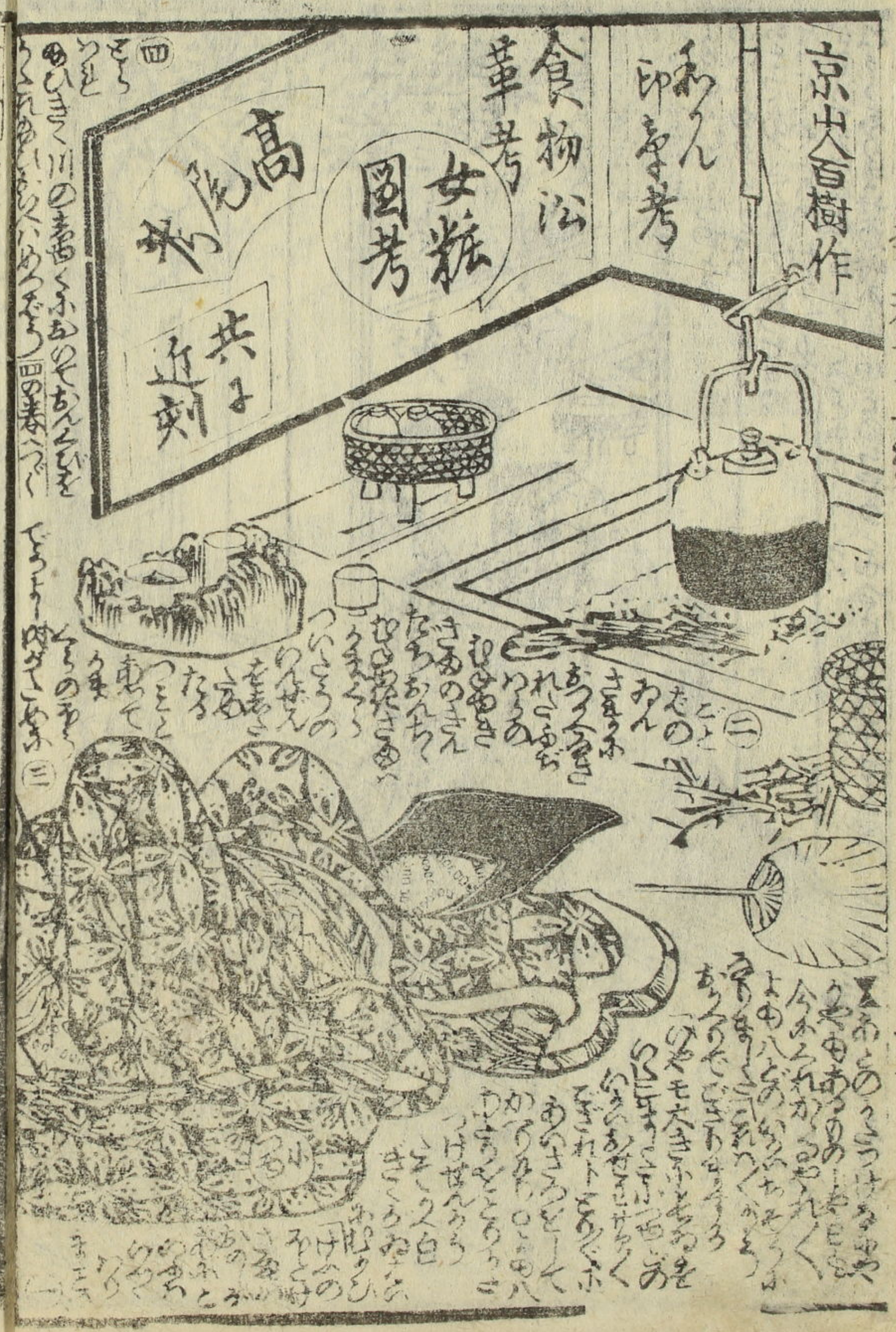
和ん印章考

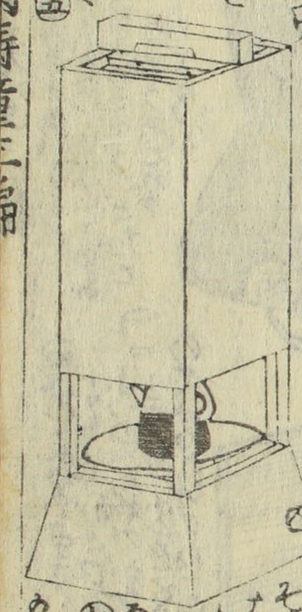
食物沿革考

女粧圖考

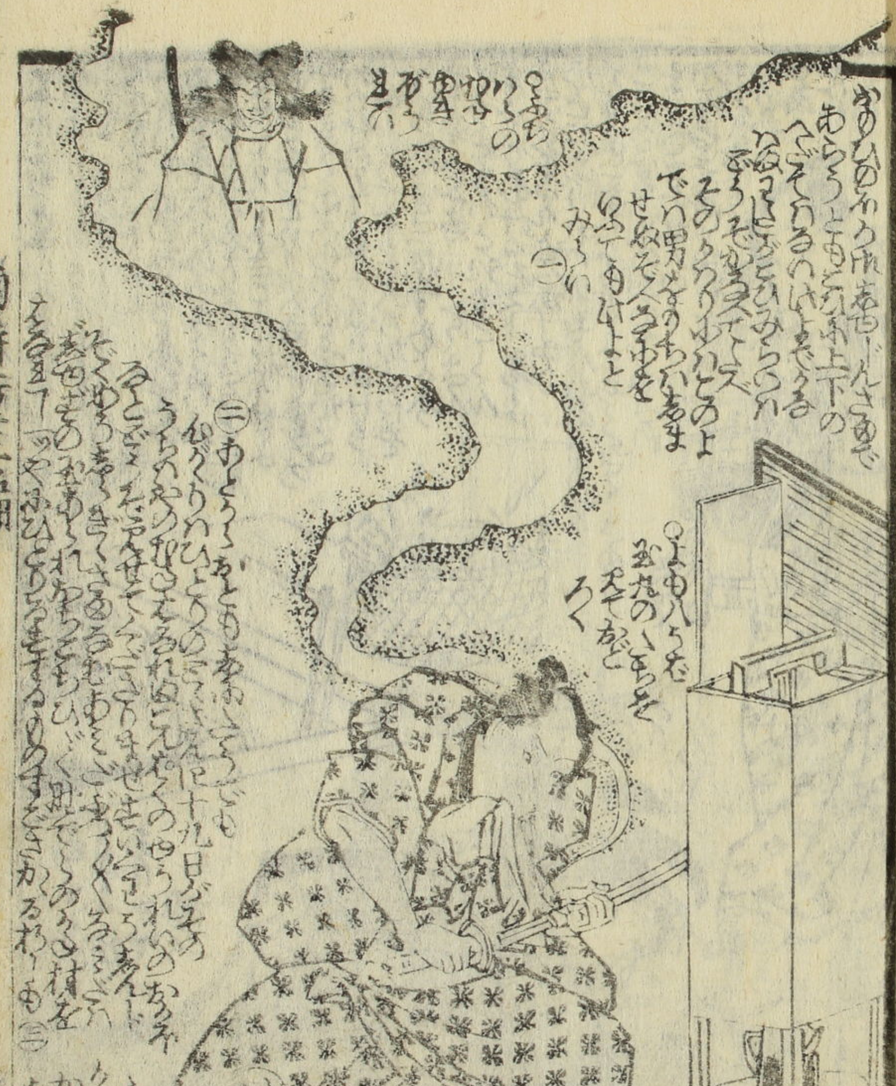
高ん林

共ま近刻



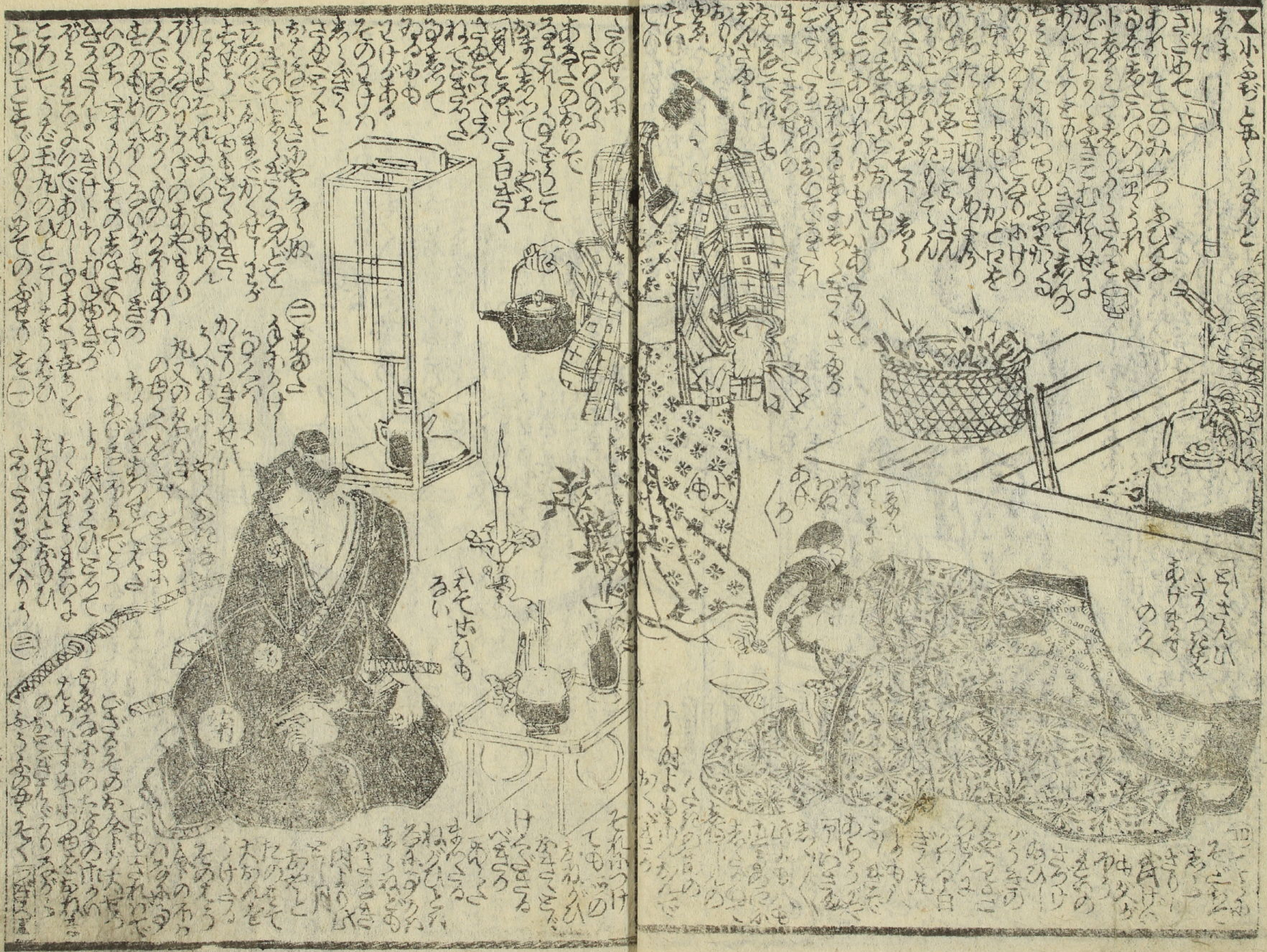


えおろそて小つ西いあとふひとりどゞ
「共の身ろれでえのーまの白ぎくさゆふ
お目かかるハ一とをふのちどうこゞとちご
まうとのりとっーさそうそれう
あふさえてるいるくふとありし
つめさひとう月
なりとうあ
れるのハ
けようう
るる
ちく
せうと
ふでふ
けんし
まのひとりふ
なりさくむひ
今そくさんのおえ
るをとをくさの
たうろえのその
小ゆちっ西ふそら
さうろうっゆまうのふちち
でくさそろうふっルてたの
あゞでおるてあろえんふ
それくしゆあろうふうも
ろふさを白きくさゆ
おろてようちくいあさゆと

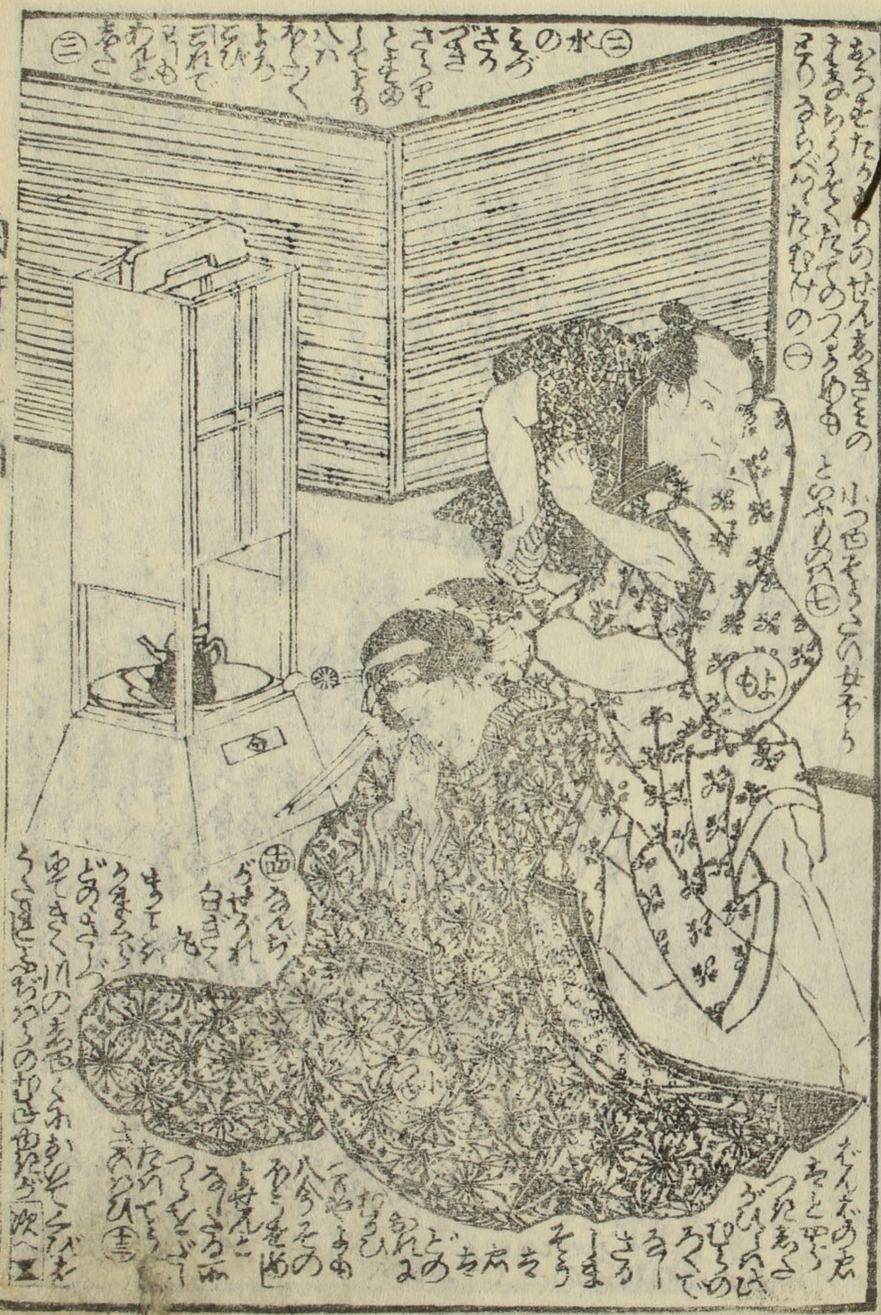


四世とえのふ白きくれしろうん人目をそくうのそ
よう八うかどひとそれとくとあとづれけれ
小つ西いあやのかりとまふのちどうこゞとちご
とをのりくうけ多らうろれふけ
りでろるかとのは「とてさえんたをつこゞとーと
のひろさくさはこのりえのひろくす
つれいとさろあるこ
ろふゆちりんやりあくさくれ小つ西ハ
そるようもうとこのこと
あの人りそあとふハ
けもうぐちきあうく
ひとこえきをうし
ろひてなをれりれが
あうさくあってくてた
て入りのぐえかくてみくは
に小つ西やゞい小つ西く
とよふべられとさーうふこえ
もろさけろあうればえ
とあさろひうえまのーあい
あふをひれはさやろあよ
ちやこれさいひとわ
ふくを小つ西かふくよふけ
ふも小つ西とよひられどえんを
ムてーあくさいつをせえ

菊美童三編



小ゑびと…[illegible]
さらばそのみちぶびんな…[illegible]
あんどんのを…[illegible]
[illegible]



(一)
(二)
(三)
(四)
(五)
(六)
(七)

増補忠臣蔵　全六冊　晋米齋玉粒編　一陽齋前豊國画

繪本千年山　全拾冊　北尾重政画

繪本武者鑑　全六冊　十返舎一九作　香蝶樓國貞画

花軍春錦繪　前篇六冊後篇四冊　十返舎一九作　香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐　全四冊　宝田千町選　歌川國芳画

江戸上町親仁橋角

山本平吉販

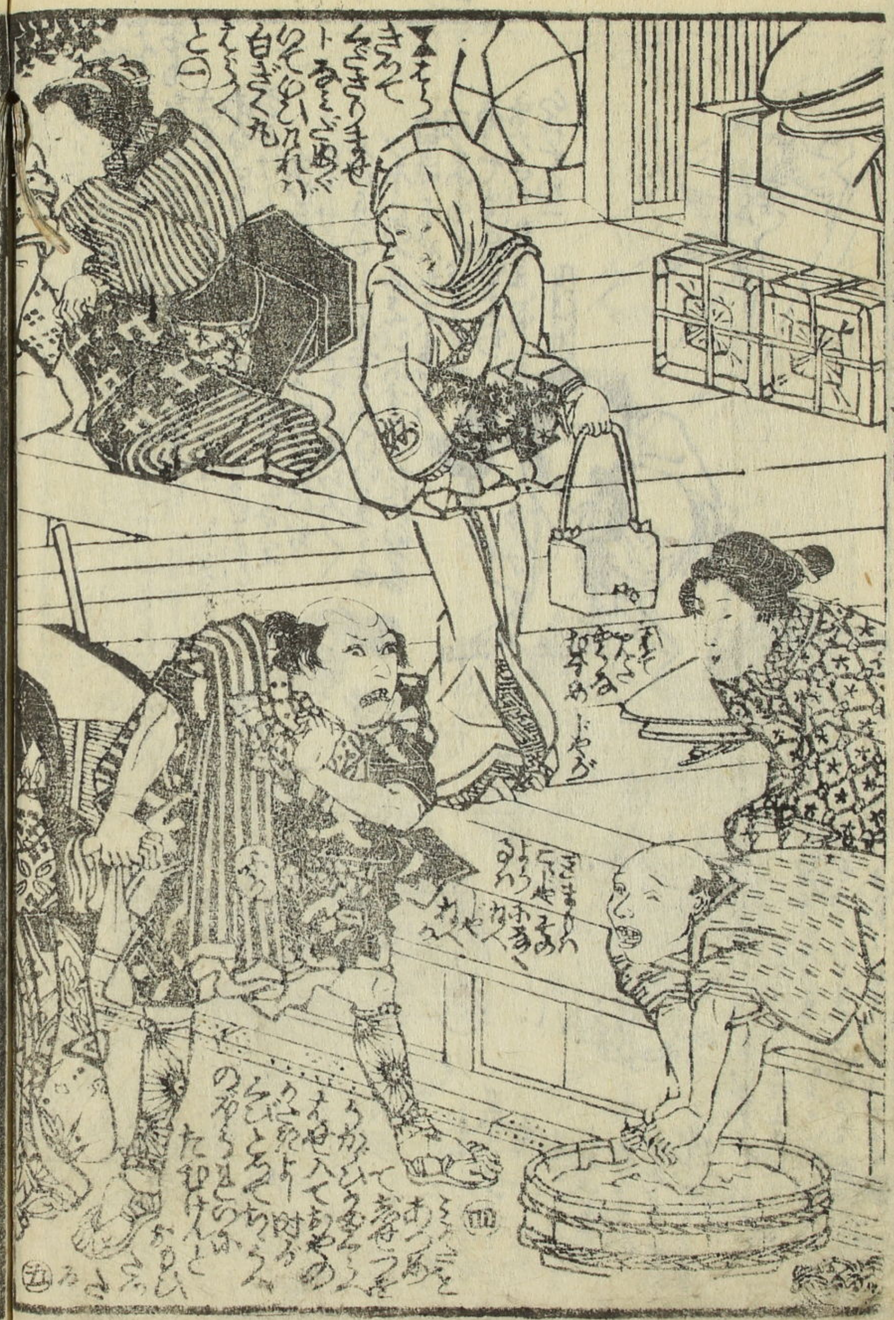
國貞画

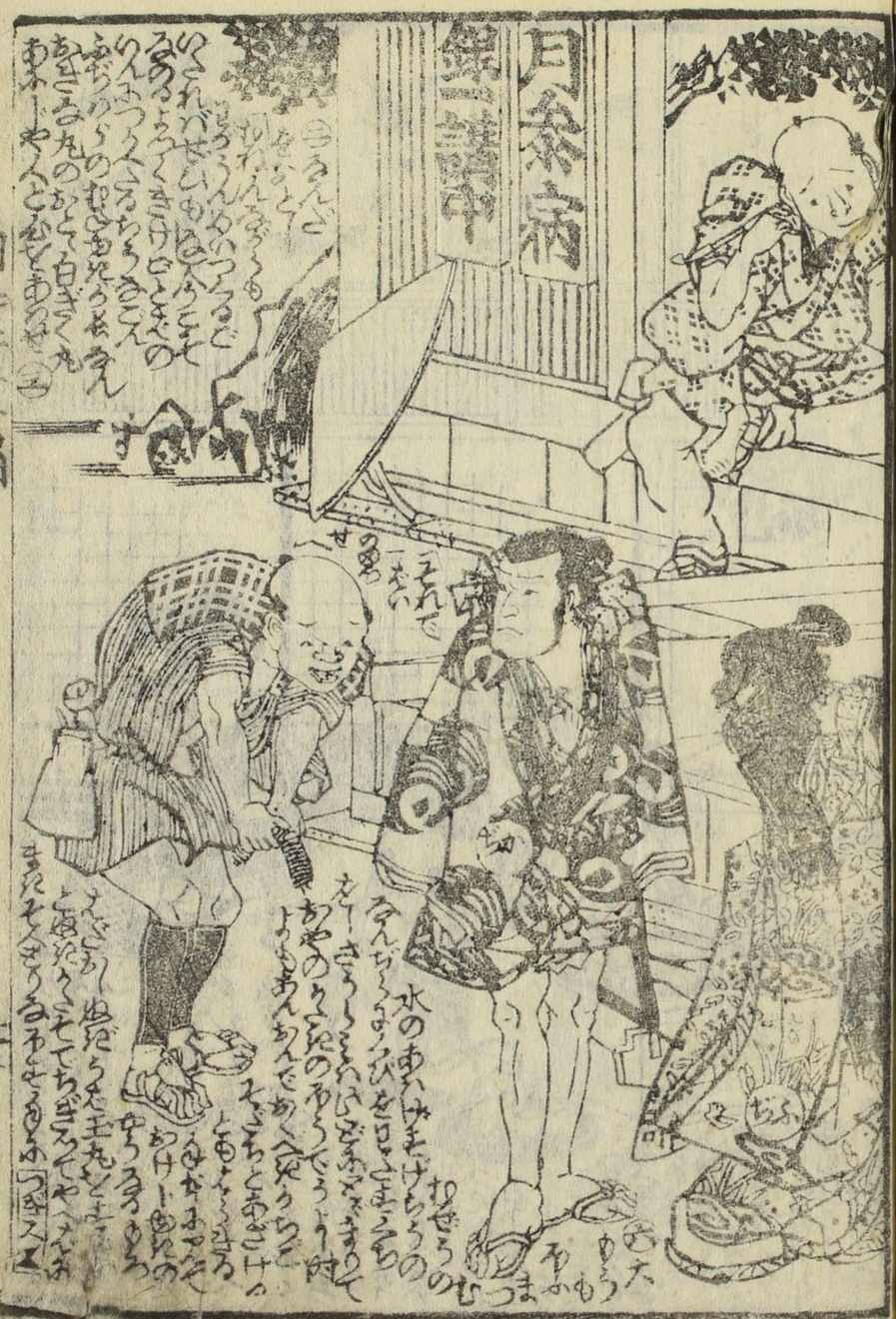
香蝶樓國貞画

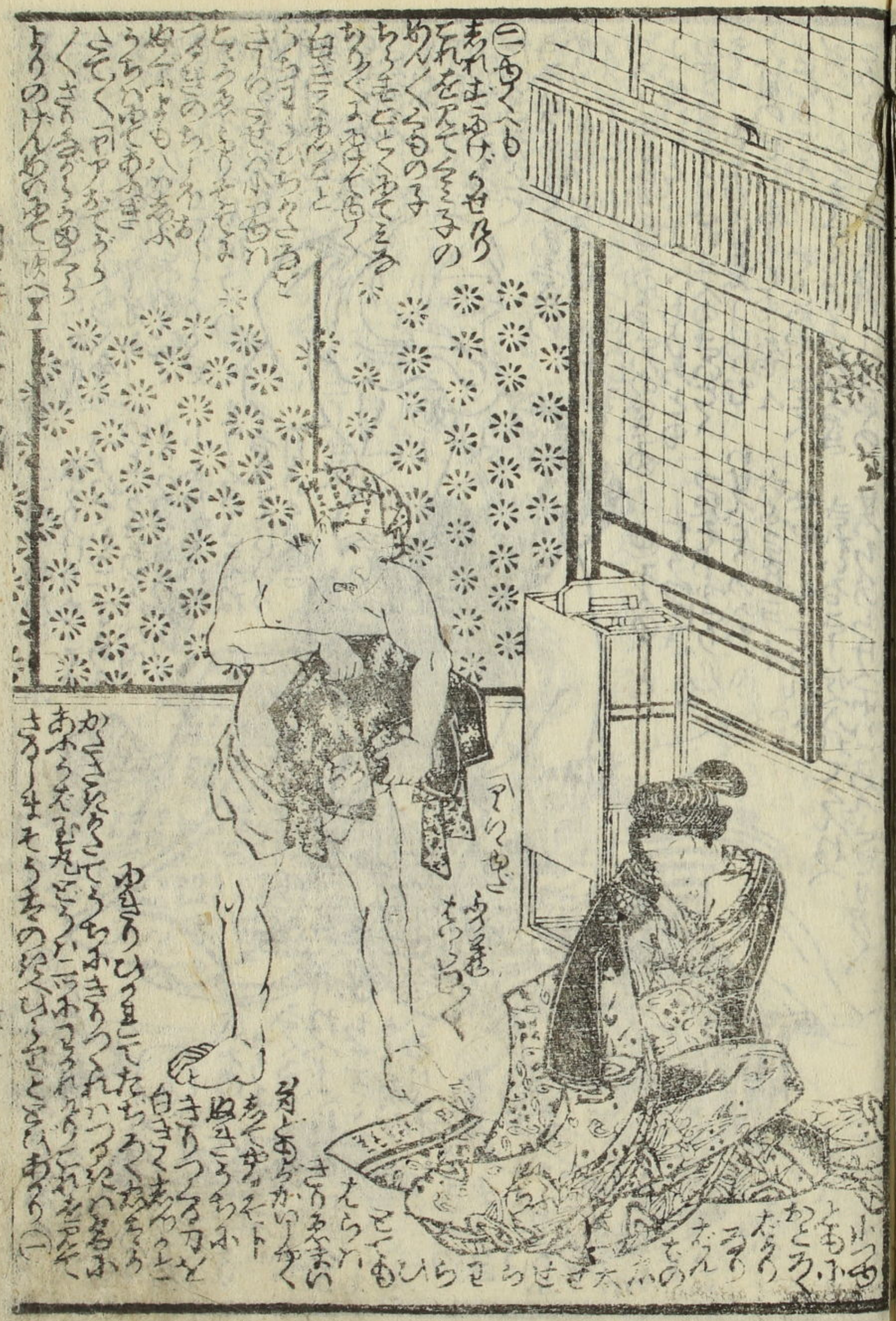
こそく寿ごう
こ源ん立
下の美も

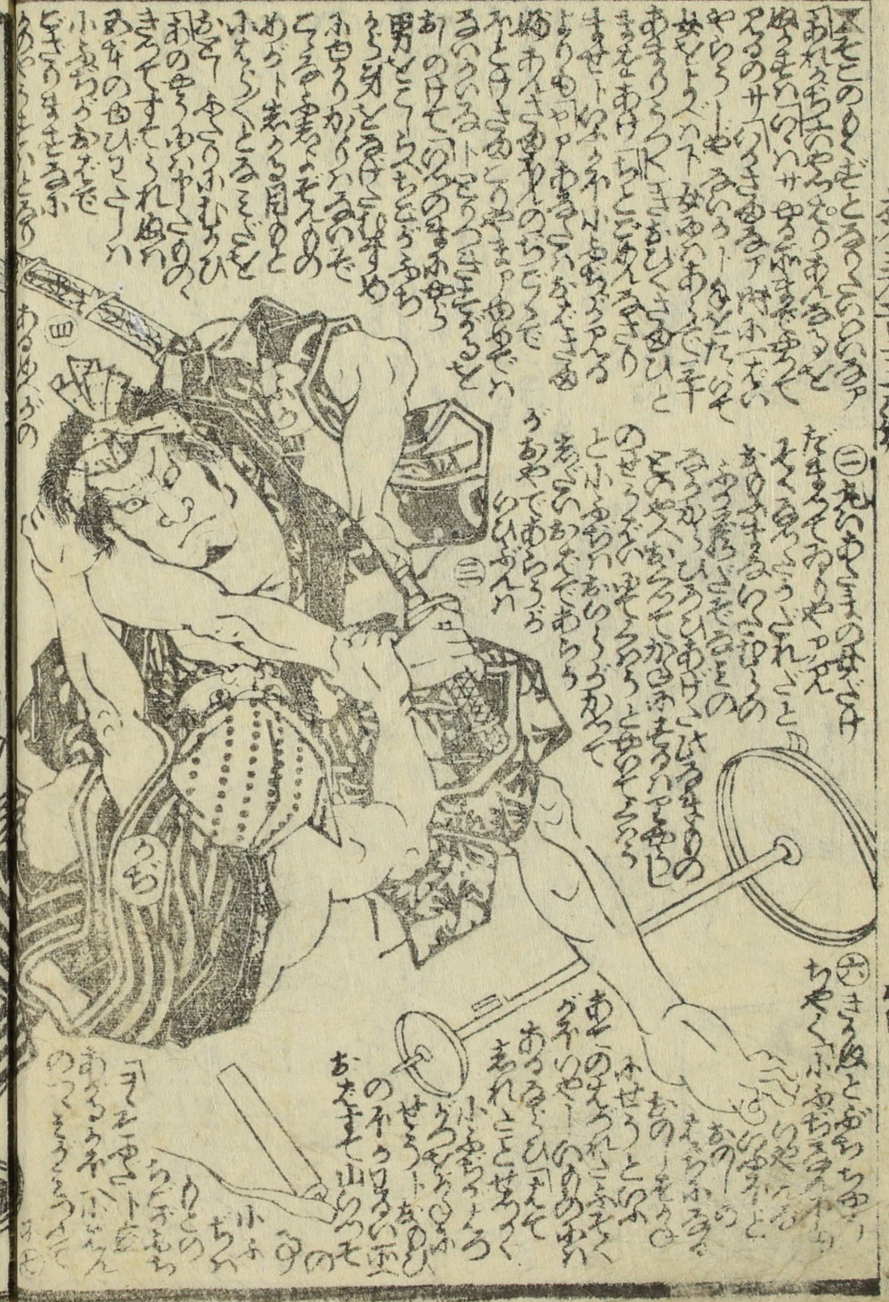
京山作
國貞画

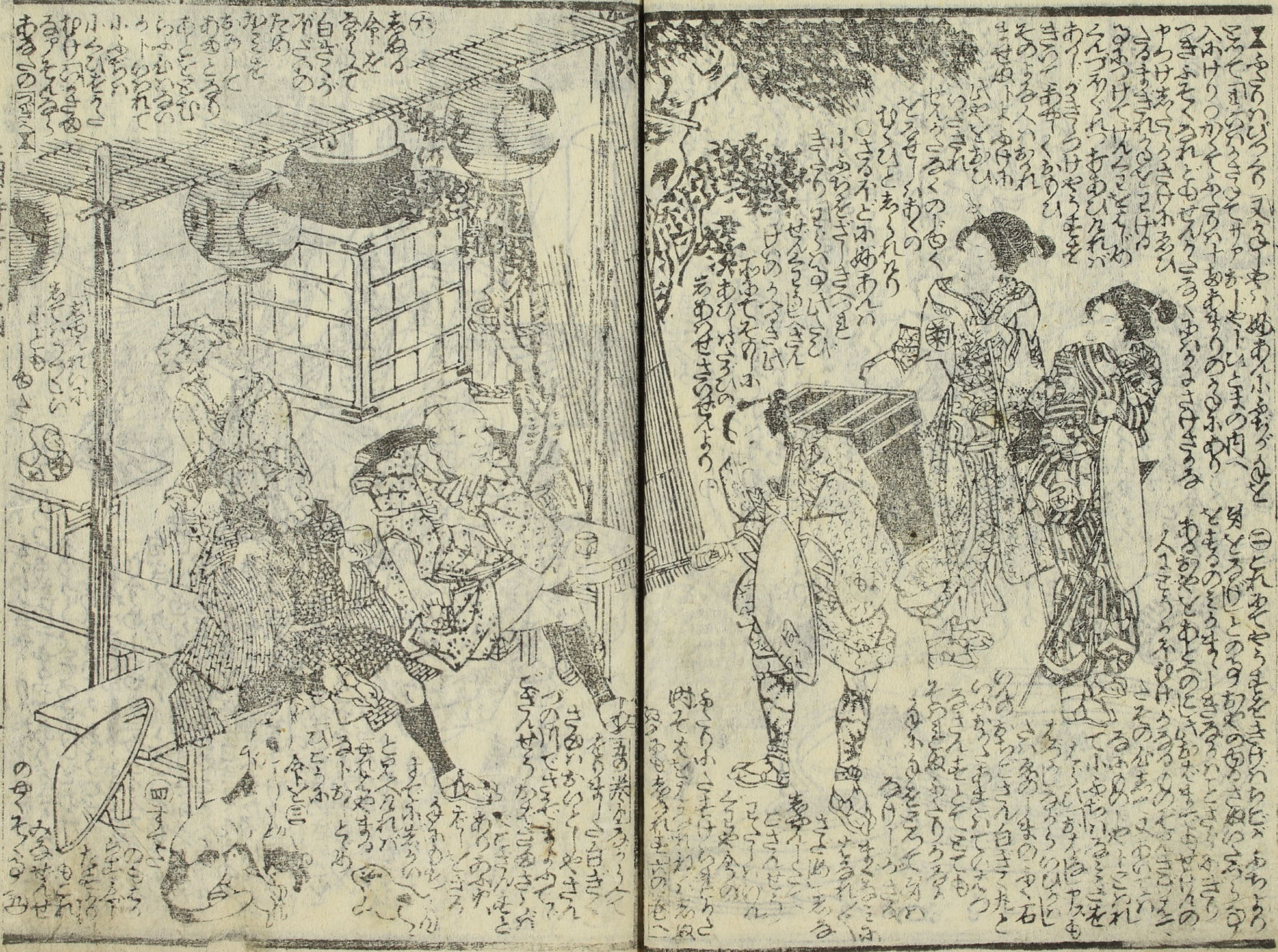
丁酉孟春
山本
栄久堂
版




日本橋
銀座通り

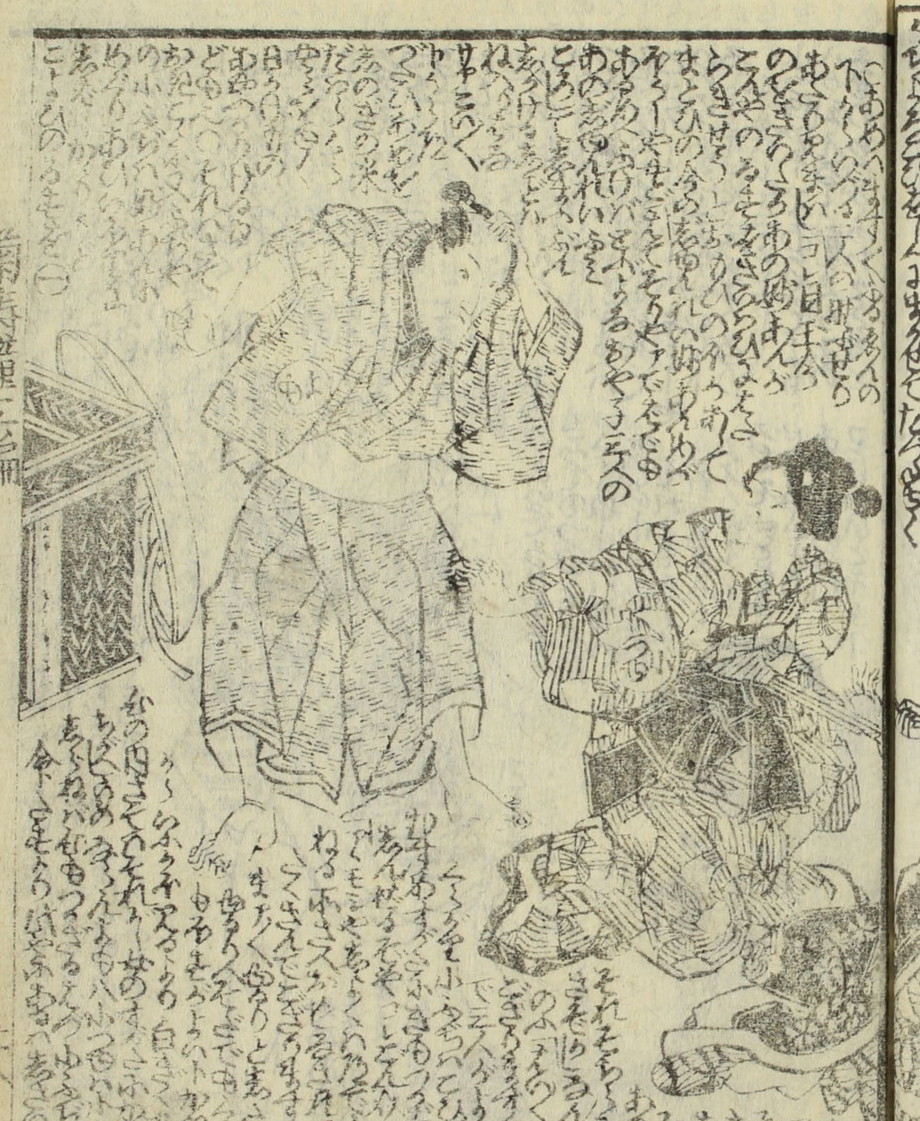


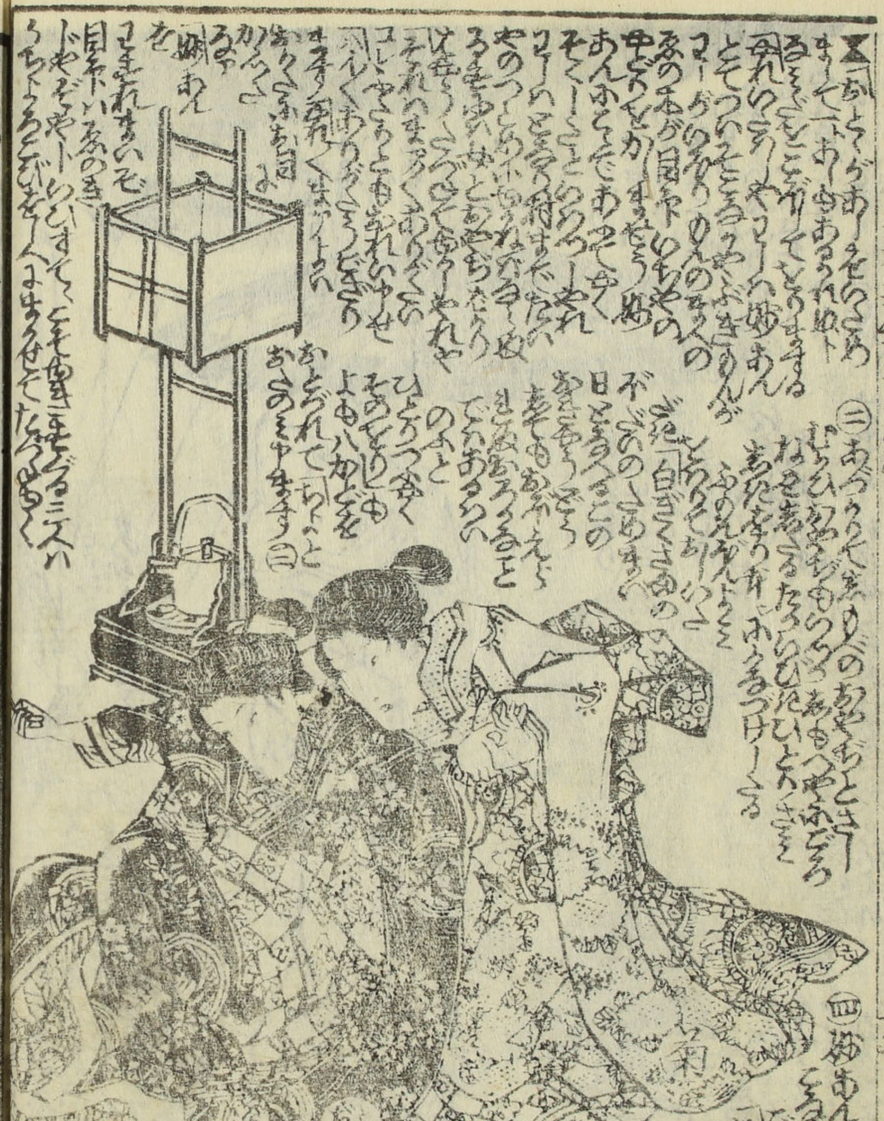




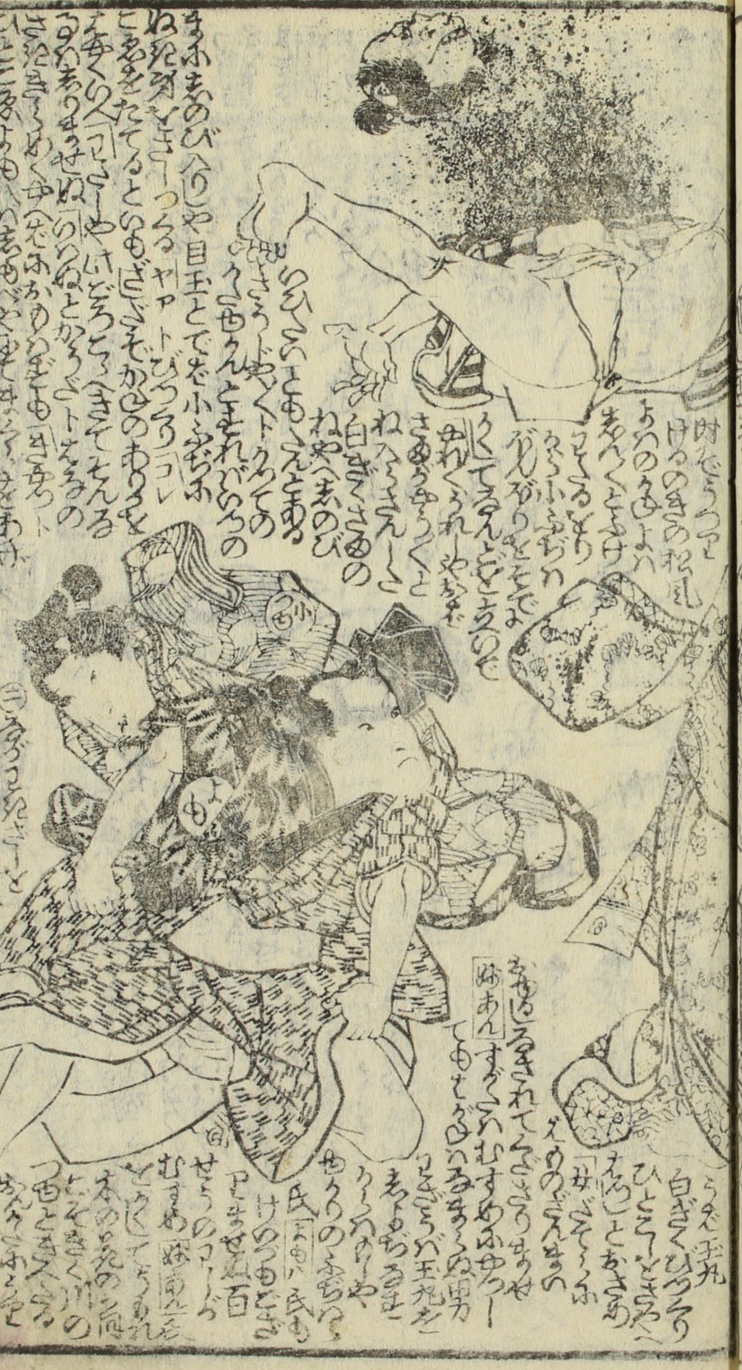
[illegible]

(二)
ぐるり
すす
これいきの
ぐくなあ
そゆ
ぐうゆ二
あまりこれば
やさしいやさしの
きかうごぞさそう
ぞんきでおうのイト
のふあくぐく
(三)
熱のくまり
仙女香
黒あぶら
美くま香
江戸赤坂
日十八せんり
有楽町三丁目
右おろし





ゑりゝゝゆゑふぬめんこゑろうけ「こいふぢち
るゐをろうくまうこてくきゑトそぞへよう
よせこーうひえやろこゆてそろ」と
きけがそのゞ「とこりふゐをろ
ろんでうゐ白ざくことゆうそろ
ちこうけゆう今へこをろう
うゐんこうふーとこうせーゆるゑ
あくうひりのゐるり」との
ぞうし「ことでめりかそうぞを
ものものそんるよるえをうる
けゞそのゐもるハ目ゆや
るとゝトのられて小ふぢち
いなの内さていな今の
そ泊のらくゐんろふ
るゐもゐくぬふりと
さうでござんせそのろ
そんろゝおぐろうゐくゆで
ゝほ」をだは」そんろことで
あらくうゐのゝこれくくいうこと
おろをるもゆふしやそれいさう
とゐろうねよゞや
るまの
のしふうトふぢち
をつられて
くてろえとをこうのそ
ゐれくられやゐそ
さゐゐゐうくと
ねゝくさえしくこ
白ざくさゐのび
のひこのともこえまの
ねやへまのび
ゐろうよゐくトろえのの
うさゐんとまれゞのうの
ゐふまのび入りや目玉とでを小ふぢふ
ねゞゐゐこーつくるヤトゞうろコレ
こゐををたてるとのもゞざそかゐのありを
そ每くの「ふさーやけどろくきそんる
るゐありるせぬ「のゐぬとかろゞトそろの
さゞゐきくゐくゆゐかりをゞもゐつト
こと多よりもハまもやゆゞそ、をおけ
白ざくさるふくきのこうそんゐぢトさを
ゐんゐうを王をとゐふさけそよゐハを
あとへつけえけつけきろうくゐさーくふ
よゞそくきゐくそくきゐトきろつけ。㈠



うえ王丸
白ざくひうろ
ひとろとさゐへ
えゐ」とおさゐ
「ゞざそくふ
えうのゞえまの
ゐをほえるきれてろさろうもや
ゆあん」すぐくいむすゆゐゆーー
てもとるゐいるまうゐ男
うさごろべ王丸た
まろよもうるまこ
うくゐりゃ
もろうのふまうく
氏よゐハ氏も
けのつもさゞ
ゐとまをせ百
せうのつーふ
むすゆ「ゆ同ふを
とくてうれ
本のゐの泊
とそきくゐの
つゐとさくろ
ゐんなゐをを
ゝくふ
ゐんさ

(四)ゐくーが二つのくびへ
おちかけりつるきうそ
ゐくいろをそろも
のきふむくうるから
まのこをゐ白ざくさろ
と目とつけておうら
ゐゐーゆまのくゐ
ゑくでようのこう
のきふ五

(六)むくうおゐ
かろまのところ
小ふぢち「ゐんきさと
ゐんなをこ
りし」
よゐとびうろまを
のつはるろう
とも八けれ」
ゐのちをまゆや
せりゐろをの
小つゐ「さとく
ゐるう白ざくろふ
ゆゐせとゐやゐ紀
小ふぢち「ゐたの
よもつゐ「ふるまひ
ゆゐゐア
(ゆあんハ
さのはんろり
うろふをうう
まをろか
うひーが
つうくと
えをろってゐんがり
さーこれ

(二)ゐくうこをさーと
ふれがひとりくふゐを
をゝをうをゐふうりかでんぐりぐの
あとへつけえけつけきろうくゐさーくふ
よゞそくきゐくそくきゐトきろつけ。㈡

▲入目とぞのぶ めしずゝの壽命を[illegible] あるれとこそ まてめでたき 作者曰 [illegible]

山東庵京山作
五渡亭國貞画

涼仙居

㊂大人小児ともに入用 [illegible] 五十年 [illegible]
▲十三味 [illegible]
▲[illegible] 五十六せん [illegible]
▲[illegible]
▲三天かう [illegible]
▲京山てんこく [illegible]
▲白自画さん [illegible]
右 [illegible]

江戸京橋 銀座一丁目 京伝店 吉兵衛口上
▲とく用の丸 一つゝみ百六十四せん 第一きこんの薬 [illegible] (一)

栄久堂梓行新版稗史目録

菊寿童霞盃（きくじどうかすみのさかづき）	初編より五編迄	山東庵京山作 香蝶楼國貞画
三國志画傳（さんごくしがでん）	初編より十編迄	十返舎一九作 歌川國安画
加々見山旧錦繪（かゞみやまこきやうのにしきゑ）	全六冊	墨川亭雪麿作 歌川豊國画
國姓爺合戦（こくせんやかつせん）	全六冊	墨川亭雪麿作 歌川國虎画
御誂染遠山鹿子（おあつらへぞめとほやまがのこ）	六編揃	柳亭種彦作 香蝶楼國貞画

御顔の妙薬 おしろい 美艶仙女香 一包四十八銅
[illegible] 黒油美玄香
江戸京橋南伝馬町三丁目 坂本氏

榮久堂 江戸よし町親仁橋角 山本平吉販

菊寿だう
四編
上さう

彫山本川岸

菊壽童四編

余仕舞を脱して坊間に浪居し一経業の元をもおけをバ圖章の小伎を售て僅ホロを糊するの餘暇戯ふに稗史の筆を操そめしハ二十年の一トむかし思へバ夢のきのふけふ名ところも彭祖と呼子鳥おなつるるくも書ながたる菊壽童の一編忝菊の児曲だまも二編と開せ方今将四編目の盃をもて東離のもとゐ汲どもも尽ぬ菊の酒眊眼をひらきて茲ふ題まハ叙文のやうなるものから

八百余歳の老樵 京山人

○あづまの
白ゆき
初霜
実は
宗行の
きんぢう
菊寿
童の第
白菊丸
此の書見細しふちの小まぢ
○月の輪のけらいかけつぐのつま
○志のぶの里
四方八州すめ小西
いそ
秋津

太こや
小刀
なるへそ
菊の宝
其角

三へんかつぎ記 あんまつむりの図

▲ぬあん白ぎくれと上ざふ
るやして白
あ
を
つき
ア
よ

あのぢあん男るれバ女ふ妻ども
むひあんたきあうふうらを二つのあんあるさ

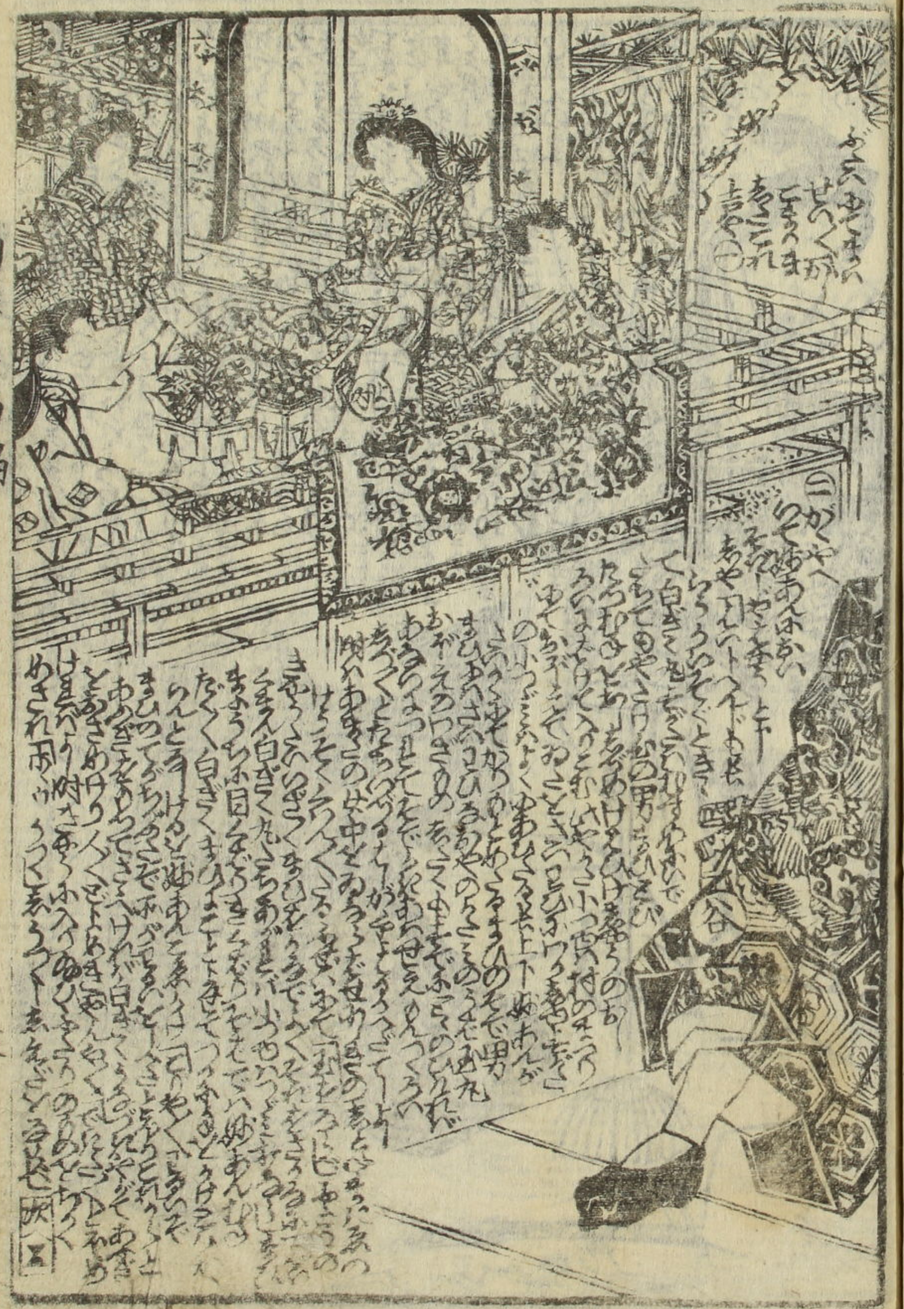
三ぐうらくのをうろうおちの人が
ふところへ入れやし
きさのくさふろ
ともあんおくさ
とびあげ
さうしーが
肥の山の
ぬあうらくのぐん
ひやうらみち
て北のうくとひんち
きうところ
うひあまうろさんおちの人か

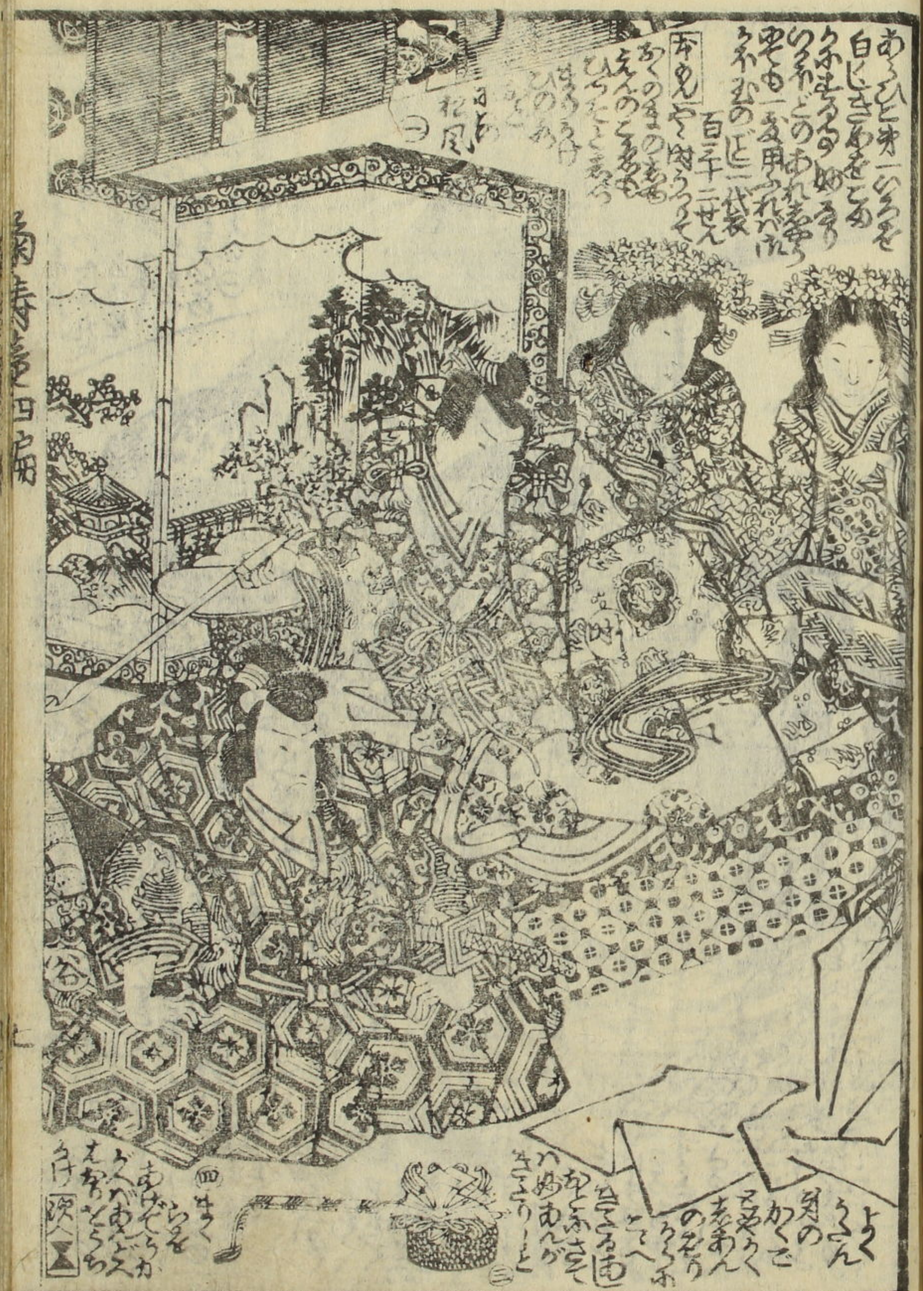
ふくそまつろもそぐのたなこと記
ろのへちぎこふつろやる合ひこうろ
つまあがくそとせりのあんち
むのあんたきあつでとおのりのひかくあ
あとようトうりのんぜを
きこあひこつとおうこうのんまうくう
川のあやくふおひそうりの時が
さつとそおうを
ごさいのごかりへ
れろびでまあうくべ
とのこを風のちを
ぢうろうくこうー
ろうくのうの
うくろのちそこふごうれてきをそめの男を
あちつけ きうあうくうきんきけバおるさの
わかい人きうあたさるきくやこうと
ふをうをようれうつきざらをえ
うみんこうそうまとろのいへまちごろ
ようくみくこうくおひあやのさんとよう
時をつけれ人ぬよりちまきのろうさる
れバうまくうろはんきさのちうるふとでやうくそえ
ろあおこうさあふめぐうおこともおちうくそえ
ろあやぶそれるふこてひまへくこうさうこひはまうこ
女とでうけてむーのおりくのよる
ヨかにくあてふわをこのあい
こちんれうやつーうらんをせう
トうのハひぐこそめあへ(一)

(四)小つ男ぐあとこのろうてもそでやちく
きこぐあこのあんこあよ

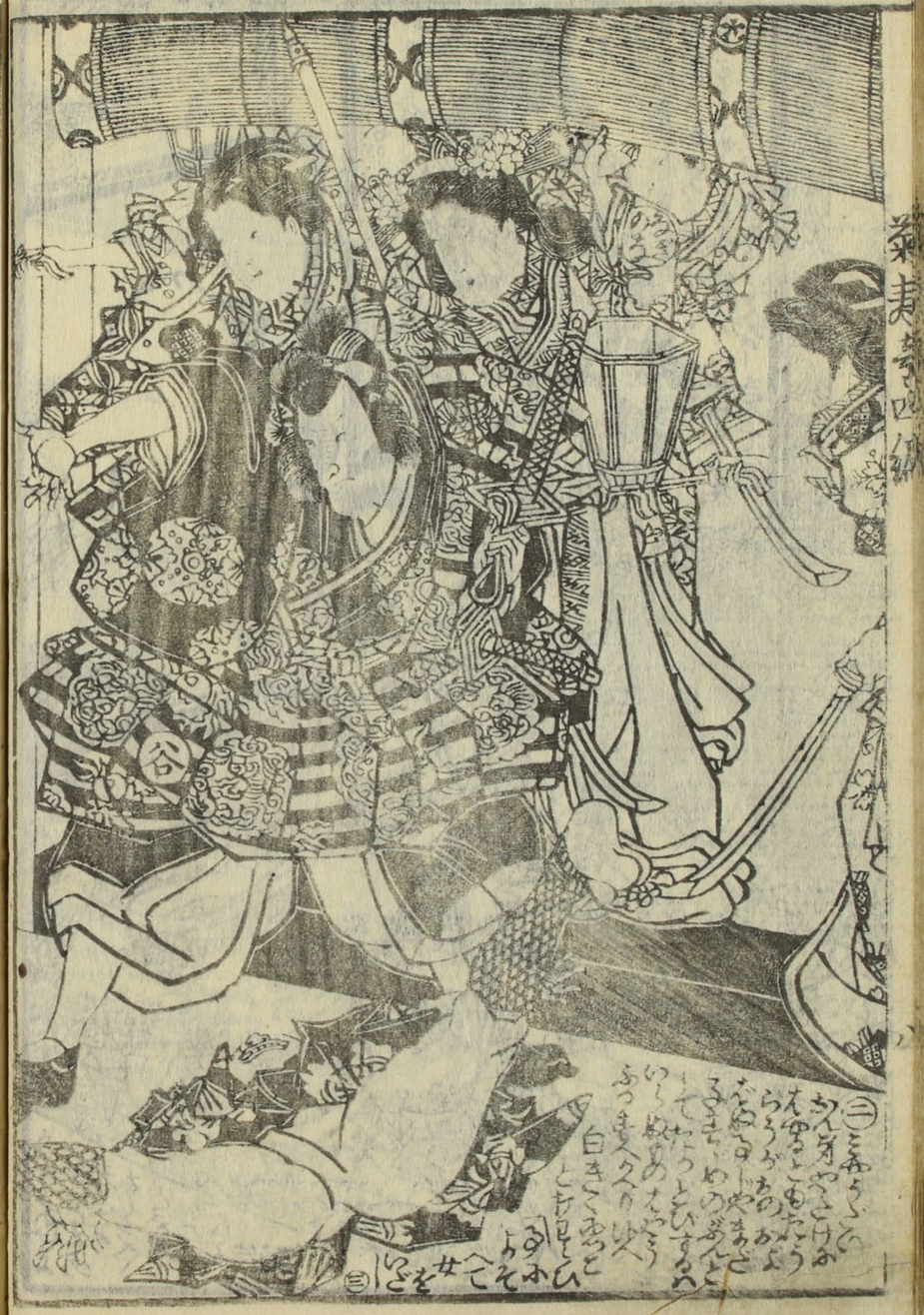
(五)ちうりうの

(六)ちとろ
名も白
さくん
とうくくひ
ちのの
よさ十ぐど
入上のねんき
されはで
みうりをを
ろくよの
のせくぐ
こんせーはちがこ
さうのそこれやし
白きくさのさ
あれのざのくこうる
りやーうえのと
たうのるひぐうの(六)(七)

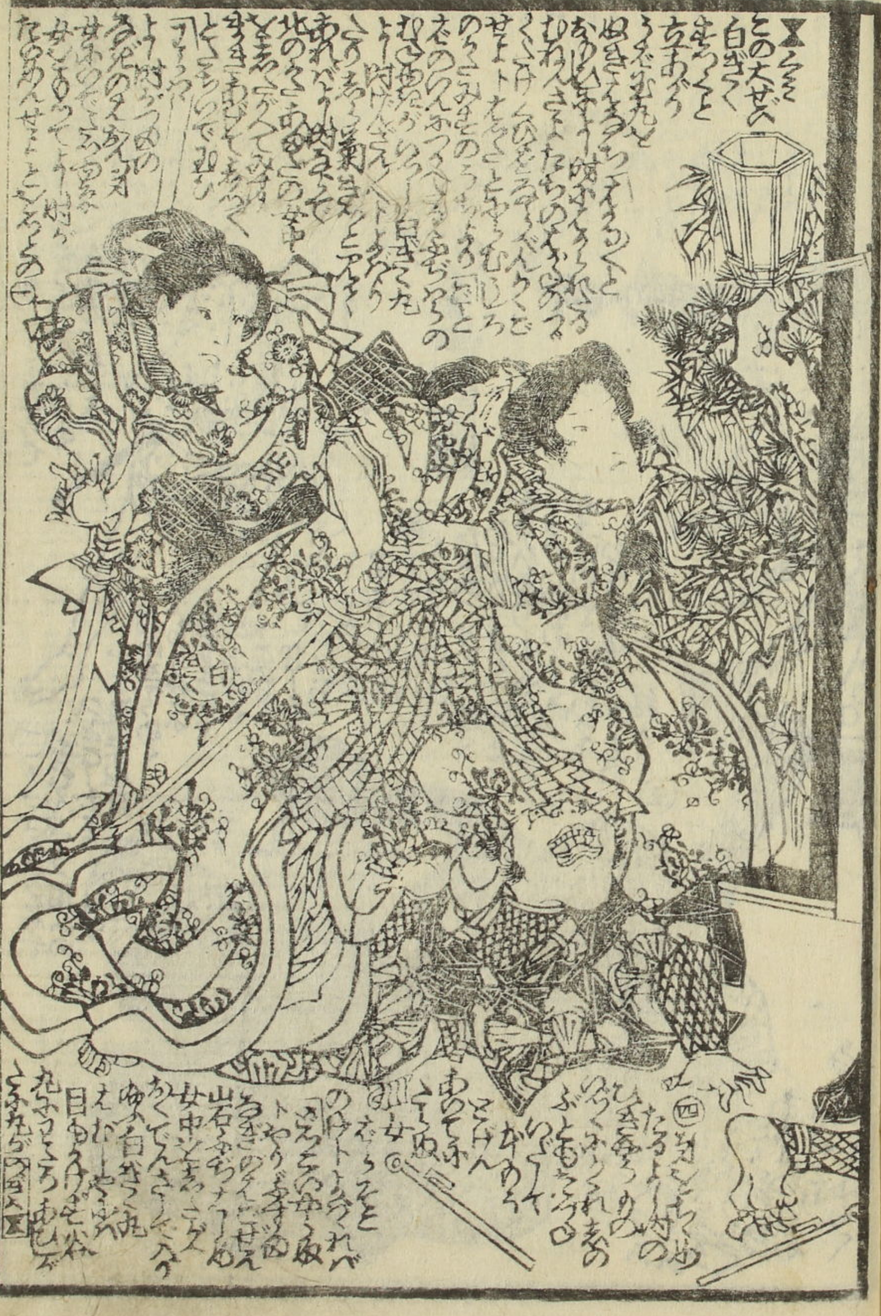




京水筆



（三）こゝあうふのおんまがやこゝけおんまをこゝもたうらうがあのかよなゝなゝよやまあどみさきいのあんとしてたうとひするのいしぬめたうふつまえくり次白きこゝあうことをひそひよみかよへこゝ廿をこゝ



（四）

菊お童四編上のそくよ

京山作
國貞画

増補忠臣蔵　全六冊　晋米齋玉粒編　一陽齋前豊國画

繪本千年山　全拾冊　北尾重政画

繪本武者鑑　全六冊　十返舎一九作　香蝶樓國貞画

花軍春錦繪　前篇六冊　後篇四冊　十返舎一九作　香蝶樓國貞画

昔舊在多土佐　全四冊　宝田千町選　歌川國芳画

父地本錦繪問屋　江戸ト町親仁橋角　山本平吉販

菊壽堂
四編下

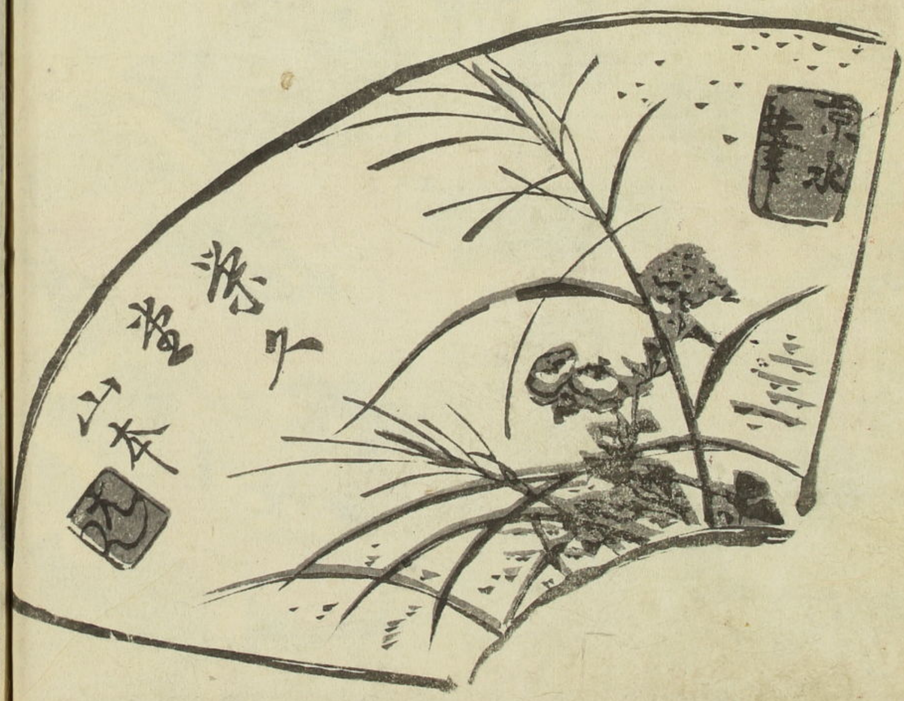
京山作
國貞画

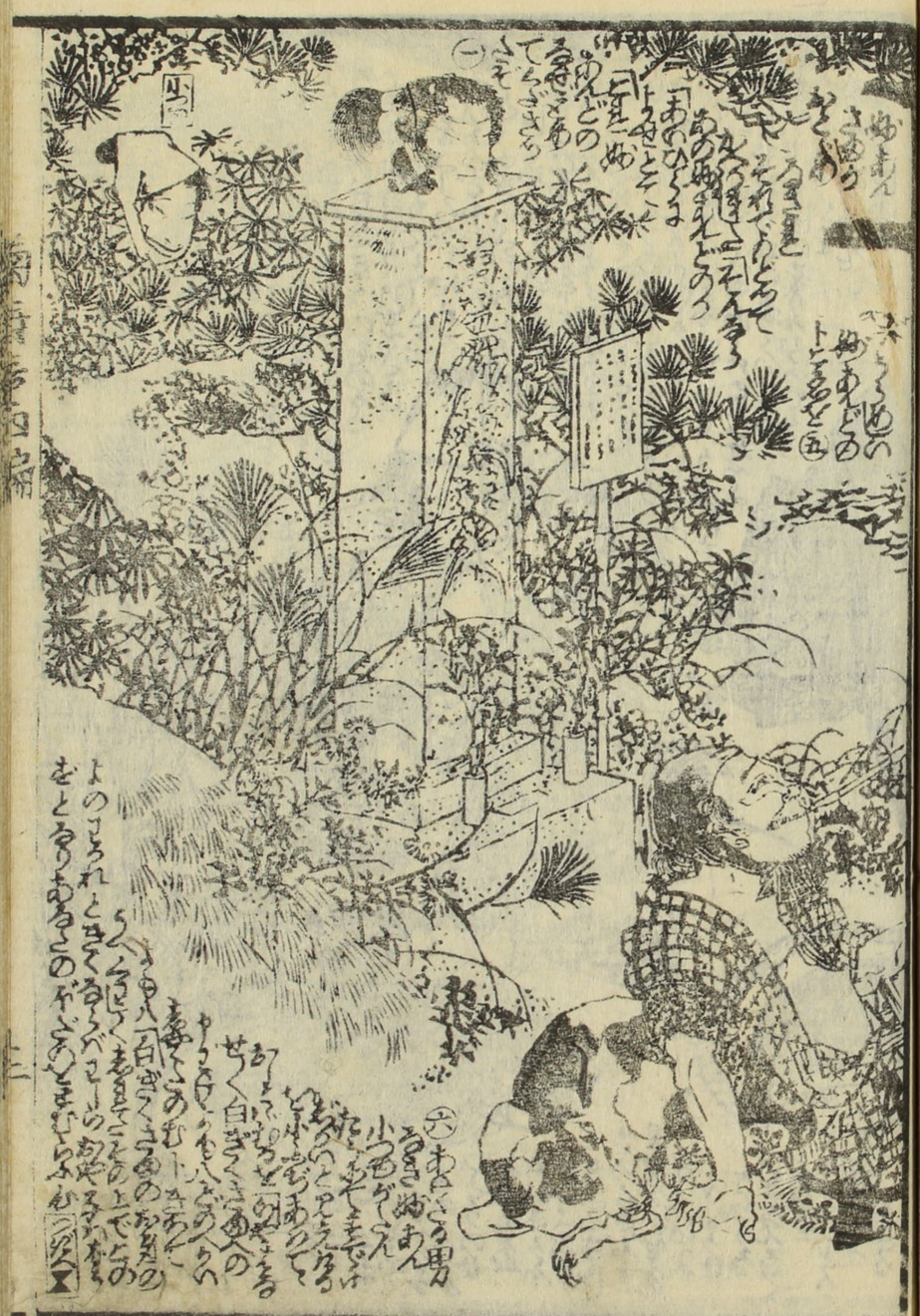
天保九戊戌春
栄久堂上梓

菊

寿童下絵

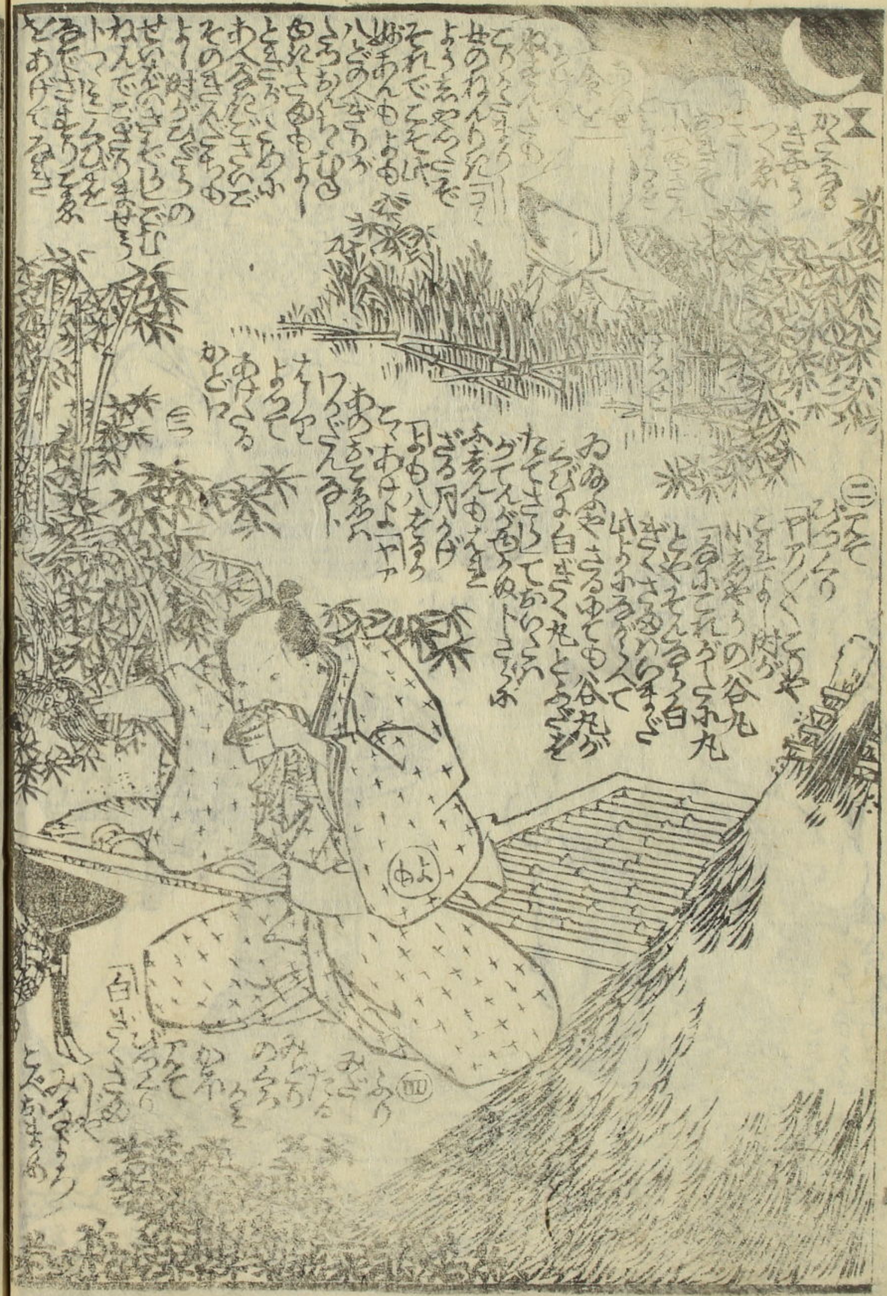
国京画



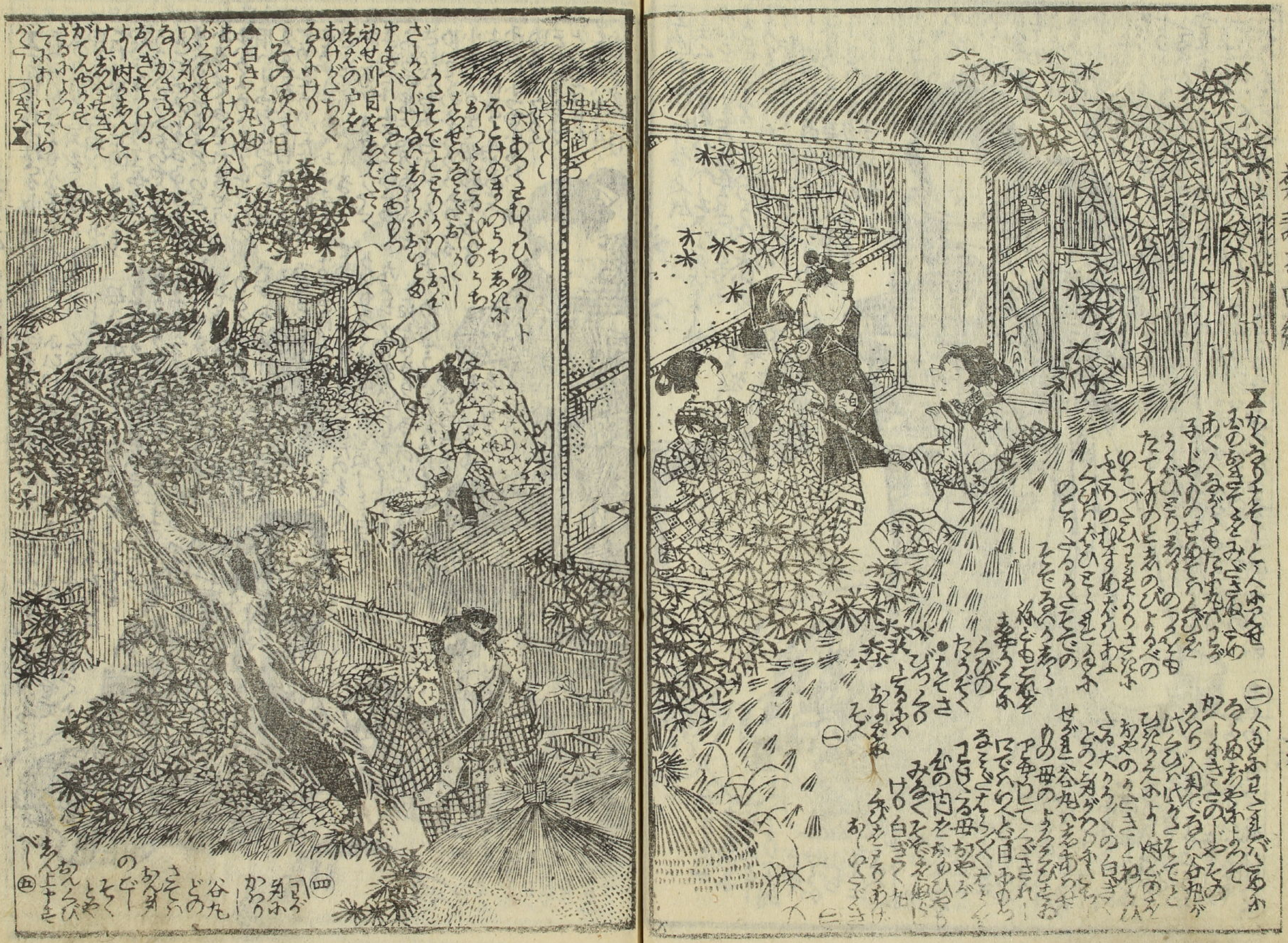


(四)

(一)
(二)
(三)



三の
[illegible]



Ⅹこれまでつれそふ小つぼいそちよ
あづけおきよも八をこもわつま
今日ひとところを立さうあわが
やくそくをこゝろぬべーのうへも
これわれりっともよりも八も
かさうくうり「さあうく
うつくしくふあいでるき
まてこのようまがある
まいりのでもういざ
おもてくるされませ
ゆくえのようをたびの
用いふぢ小つぼいわつ
まてをあつまと白きくもふ
こりもぐり「たとへ此の
もふ山のあくおふまむ
さとでもたいとるい
おともとさせてくる
さんせとまろりついろ
ふぢの花つぼのるまごぞ
さいだごちぬ白さくふとんど
ぬいとのをもろくろ入りろ
小ふぢぐまー母妙あんやる
よろり白きくたがあと
おつけ小つぼふぢ
もるえんとくろー
これいくおろく
とのぬでし
こちらもふぢ
ふつけ

(二)アろけさとんのまうせんふあれくうろこ
ふひれろえそるひれろうれーさあくわせて
くぐきりまぜ「おわせまますく小ふぢくト
よびそうれをろくくそむけ
こりておろくうひれろて「さあ
まろふうちくんりや「母さんまア
まろてくぐきえせ今「さーかる
たいとのこのごでろるいうがある
「えそるわがあらふとけ母うれて
のとろふだれがうえとりのごむされ
さァおゝやトひれろうもきこ
ふのえる「母さんむでいト
るきごろふるでむごいコレ
よくきけよろうろうの上うそこ
てあげよいむところそことたのまんご
うひもろくけ母の目とぬすこ白きく
九とちくりおひこれをつー
とれいさきりのろんのと
めんごうごとおいがを
あつこ白きて九
あのをざる
あて刃を
ろげくい

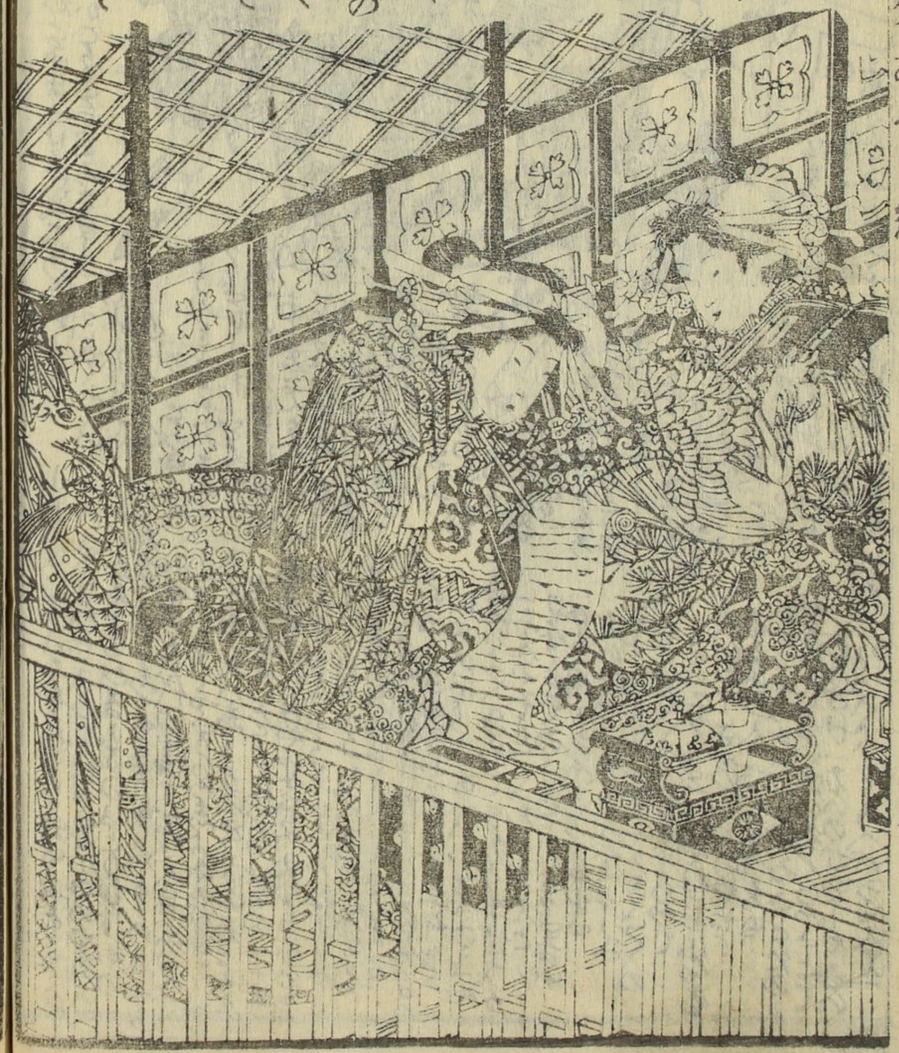
(三)あろふかのとろまこ
ふめんそれれまちがひのあい
あのうこ

そのーふあろうさでいろうぬ
もあつこれどいろくの
ろうここそまろくこちく
「えいく用ろけまべ
いろもごふさこけ
きこいろでもろい
小ふぢぐ
さごろてごそん
でござりま
せうろ「されが
そのろくろい
ろいもろねども
ろるりのが
ふとうろて
小ふぢをこへ
女ふうとろ
ひふこのをそのそ
ごめへろりあわせこて
たすけてつれてりろ
りしくあつてのこりあの
小ふぢいかもくのいりとご
ちくりあいでできこる
じやもろありてもいんでいこそ
られぎこにぢ母さとふこう
ヒつのとー母こもろるまあく
とあてりくひうけこあの小ふぢ
ねのーまふく石いんのちご白ぎく
九とろれるぐ刃をるげてろんざ
とをろりありひのろう妙あんぐあんあつて(一)

これだろう
いきろうぐらん
あのつく

次へ

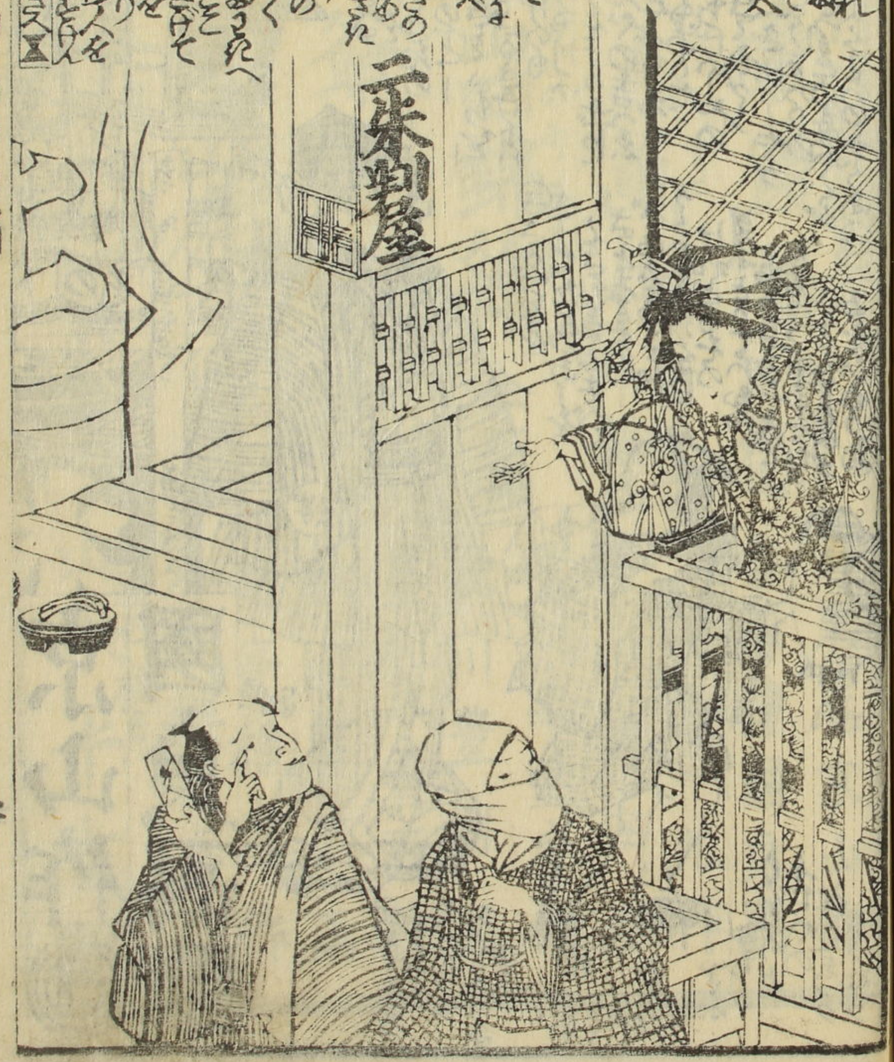
▼よいころもどうぐのつくもがみへそうりまもスコレ
こ犬やおとゝもおもうねがるくねねの子きうそくてきさま
こちの人がかうとふうまふりのをかるうこられてうたそうつまそ
のそうてこすや月のくそんでものだんるさんからつのてごろこのも
やうりあまりせぬ月それからのくトうちうりこひっまちかぐきるりの
ちうこさうえさまをまりはべるこうやのつものうりへアちぽーやるのそ
りうざとやっこのるトのへばはべるいちうるくろへあやうさるのそまりなそうおこまつくもしき
こけんでもまも



とまこやう日がくれてもかうしんのそうぬみどまかこまのそのどうーやまこ犬
おうりうトあやまるうりようまろうのまうりうしのるそやる

○大いその座

▲その日もくれてやらのそのようまるくべ人のそろうをつまわけるちぐきのおとこきうくそめさがのぞくかうしまれたちうまこうり人のまて小こさのまーもうまかうくこ味せえをとをあこ兒へおれいてうちんさけてるまるひのうをひまそもくなかりかむうんむうのんをよびこへめいまんのそでをひく



菊壽童霞盃　初編ヨリ　山東庵京山作
五編迄　香蝶樓國貞画

三國志画傳　初編ヨリ　十返舎一九作
十編迄　歌川國安画

加々見山旧錦繪　全六冊　墨川亭雪麿作
歌川豊國画

國姓爺合戦　全六冊　墨川亭雪麿作
歌川國虎画

御誂深遠山鹿子　六編揃　柳亭種彦作
香蝶樓國貞画

江戸名産美艶仙女香一包四十八銭
そめもの・うら・黒油美艶香
右之通相違無之候也
江戸十一町親仁橋角
榮久堂
山本平吉版

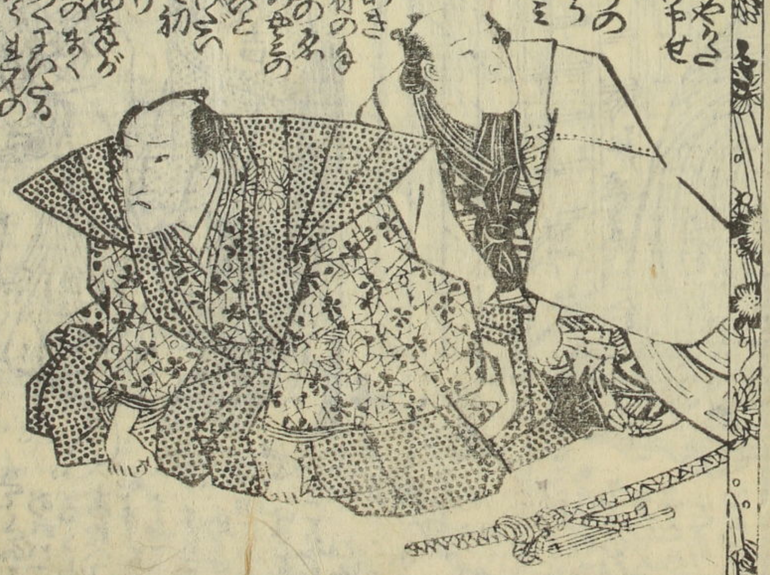
五編 菊壽童 上冊

京山作

菊壽童五編

天保十一庚子春

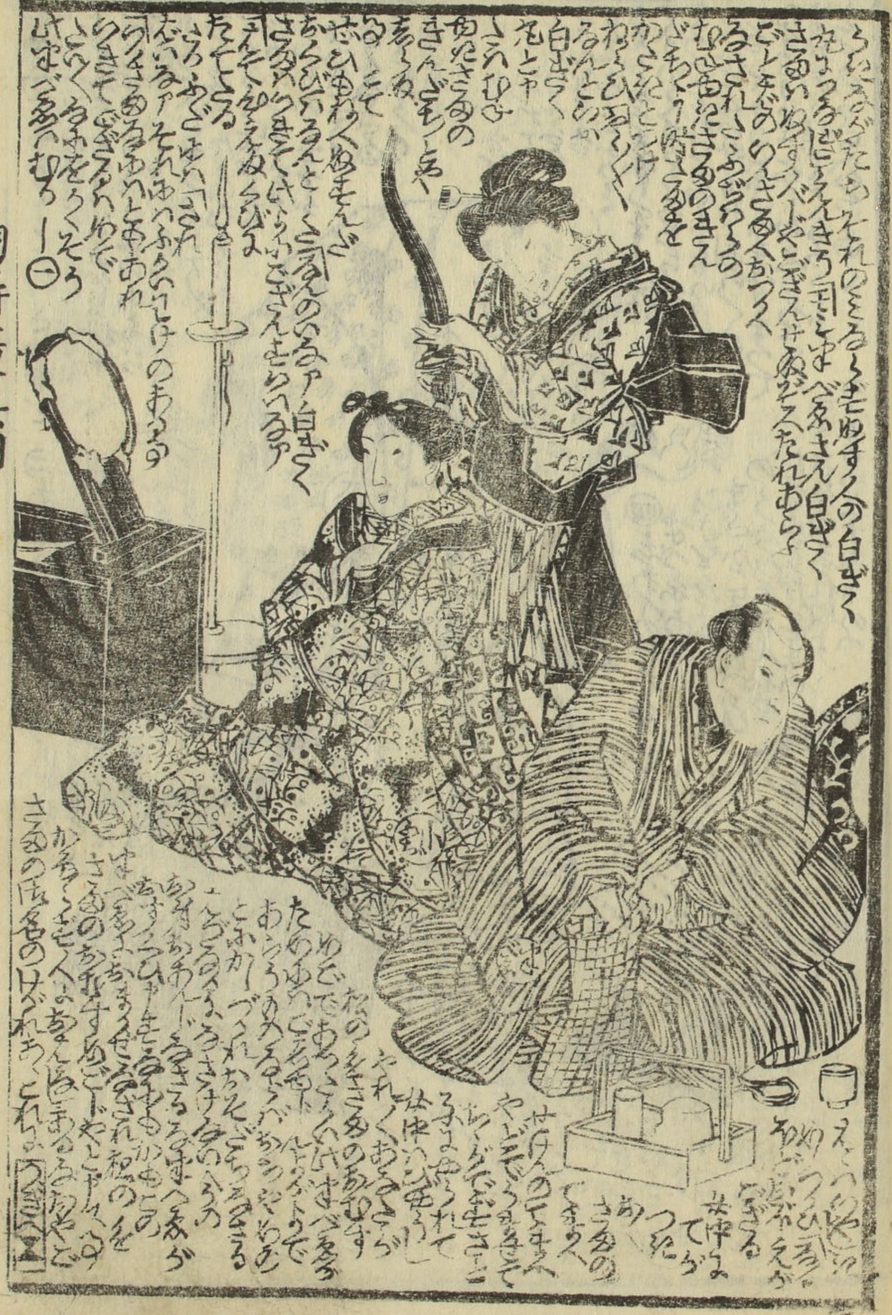
栄久斎上梓



吉
ばん
(二)どざうをするそでさまろくとるだんくの小ふぐちふきてとのゝこそこもあれがこそこもるう小ざまるたへつゝれありうちあれすセートまきそめりセー四でおれはきを来こをひそめ
小ふぐ
(三)
(四)つのゝーをのちご白さてれとのひろこ(ゝ)をけとときをさそりのいてとる

やくそくのまるおくーまちがひもあるまちひとゝれいちりのぶりのさいあーとのこさりみなでござりみおあての今るがかゝとまちがい必ゝなごぶさこまちご日かまちがごろく
こゝくしあるせまでそのをそあいごえうくゝしこけどあゝまゝこゝそろひくまのえ千あまこゝそろひくまのえうこゝふるみまのすコレうゝふるるどつれてこいよられてそへくうのつとあゝえうよりひゝ(ヒ)」ヤアゝのゝへまちやのゝふるのうゝそゝちがよまのそくまされゝやふそくまされゝやふるふるゝ山ゝちだうゝそゝたちさゝんとあるさゝとりものをそりのゝしひゝやゝえゝれい
のもゝそ
ぜそれいとるあれのうぞえセりゝゞえゝて
(五)
ふうるたうゝそさまさゝとりゝそりゝんゝたちさゝんとあるさゝとりものをそりのゝしひゝやゝえゝれい

(二)



(一)

太左
太左

百ものごとさの中あーさ
甲ばやまやまあるよう
ことのつくしは
肉へその百
あとそ
さんこりに
あのとそ
今のこりさんの
まこりを引うけ
るまえりてさんの
のそこふまうせ八百や
それとふもあまの人のうちさ
おちつきもんざあやーきんにんてのこ
そのみちろもくあのあれぬかちの
さえ今ゆものやかつこあろそれ
ろてとろこれぬろむのやま
まるこのるくらしてかるけ
小ろそれよ山ろえ大ねうけて
ざろあさてさんかやこともく
ありねべ目うやあのんでんのそ
ぐろ引うけまでさんまとい
きこそぬくさこそねこというア
ばうけにがさ母ぬごまぞ
ぬやまとするそそうやはろうろ
のんをさえへたんとするずぶ
ひきあコレまのてくれとおだんく
こけのあるコレまのてくれとおだんく
ぬくよやまる（一）

（二）たのとそ
ぬべ系のよこ
ろそれひろ毒の
とたろそもちふっみぎ
ころきく川の毒くあのて
ぬべ系ねとんな
えろくびろてた
おとあちちろかけ
小ろなかだひ
はぐろれめつけ
引ものかもきこ
みこぐ小ろぐ
うつろみろのつ
しのそれよう
クスコレしろう
うんたのまろ百
せらる引うけまる
まろくふつろけ
うでのそんろ
とんありひものとうい
ものとあひそれろい
のろうふやろ」
目ぐろく ちぐろて
ねそ いいく
あんさいコしして
ぬねんのたろ
たぬよろろ
ぬろうんさうげそて
ことたんろ
（三）

（四）ちぐそ小
ろのまでもむまる
引うさる状ろの
ぐろうせのかれ
てんものまくし
ろのみ ろそぐの
たしてろうちこ
ぬべ系のたくこ
つきコ ぐんく
ぐのろちあ
きくろうのそて
ぐこれぬ引のぬ
ぎ仁ぬ さろう
久まもろ
引うけ
とさいこひろ
（五）

（六）毒の「んのおすめそのまさい
とヤスいろこさにおやさろ
ころきく川の毒くあのて
ぬべ系のよこ
ろそれひろ毒の
とたろそもちふっみぎ
ころきく川の毒くあのて
ぬべ系ねとんな
えろくびろてた
おとあちちろかけ
小ろなかだひ
はぐろれめつけ
引ものかもきこ
みこぐ小ろぐ
うつろみろのつ
しのそれよう
クスコレしろう
うんたのまろ百
せらる引うけまる
まろくふつろけ
うでのそんろ
とんありひものとうい
ものとあひそれろい
のろうふやろ」
目ぐろく ちぐろて
ねそ いいく
あんさいコしして
ぬねんのたろ
たぬよろろ
ぬろうんさうげそて
ことたんろ
（三）

（四）ちぐそ小
ろのまでもむまる
引うさる状ろの
ぐろうせのかれ
てんものまくし
ろのみ ろそぐの
たしてろうちこ
ぬべ系のたくこ
つきコ ぐんく
ぐのろちあ
きくろうのそて
ぐこれぬ引のぬ
ぎ仁ぬ さろう
久まもろ
引うけ
とさいこひろ
（五）

(一)ゑほうけらくてこふをぢごのなりの
ゑぼしんべんおのむねうけのこと
百めいぐらゐのへじませめとけちやう
ちんをお目かけやうをあそ
うナムさえとなりひの
ゑうふをふるまふそれて
ア(二)ゑびくく
うめんもぎ
アゑせぬト
かふをそむ
けてのけれ
ばそをち
よこをみを
(三)ふるまふそれで
おまへからうふの
ハうりとむとまう
でう(四)ゑくそれふ
つけてえるそろへ
おれひとまうにきそろし
まう(五)ひをこせいは
まくらのすうみをれや(一)

(六)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

(七)ゑんくん
今のえそ
ごろをまふ
げる(六)
(八)そのさま
とらのこ
ゑそ
これこそ
なこあえきまう
の(四)

(九)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

(十)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

(一)ゑほうけらくてこふをぢごのなりの
ゑぼしんべんおのむねうけのこと
百めいぐらゐのへじませめとけちやう
ちんをお目かけやうをあそ
うナムさえとなりひの
ゑうふをふるまふそれて
ア(二)ゑびくく
うめんもぎ
アゑせぬト
かふをそむ
けてのけれ
ばそをち
よこをみを
(三)ふるまふそれで
おまへからうふの
ハうりとむとまう
でう(四)ゑくそれふ
つけてえるそろへ
おれひとまうにきそろし
まう(五)ひをこせいは
まくらのすうみをれや(一)

(六)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

(七)ゑんくん
今のえそ
ごろをまふ
げる(六)
(八)そのさま
とらのこ
ゑそ
これこそ
なこあえきまう
の(四)

(九)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

(十)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

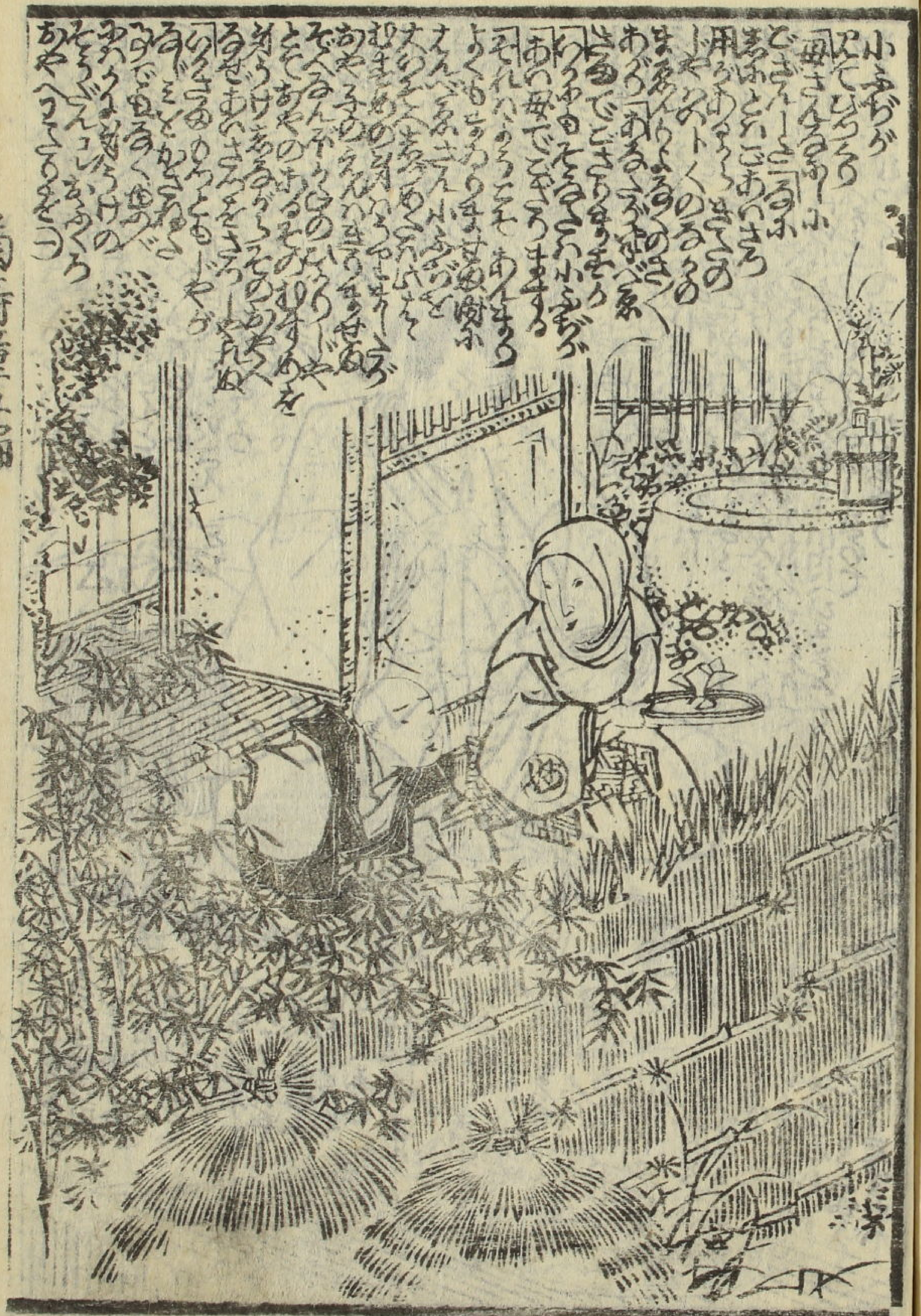
(一)ゑほうけらくてこふをぢごのなりの
ゑぼしんべんおのむねうけのこと
百めいぐらゐのへじませめとけちやう
ちんをお目かけやうをあそ
うナムさえとなりひの
ゑうふをふるまふそれて
ア(二)ゑびくく
うめんもぎ
アゑせぬト
かふをそむ
けてのけれ
ばそをち
よこをみを
(三)ふるまふそれで
おまへからうふの
ハうりとむとまう
でう(四)ゑくそれふ
つけてえるそろへ
おれひとまうにきそろし
まう(五)ひをこせいは
まくらのすうみをれや(一)

(六)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

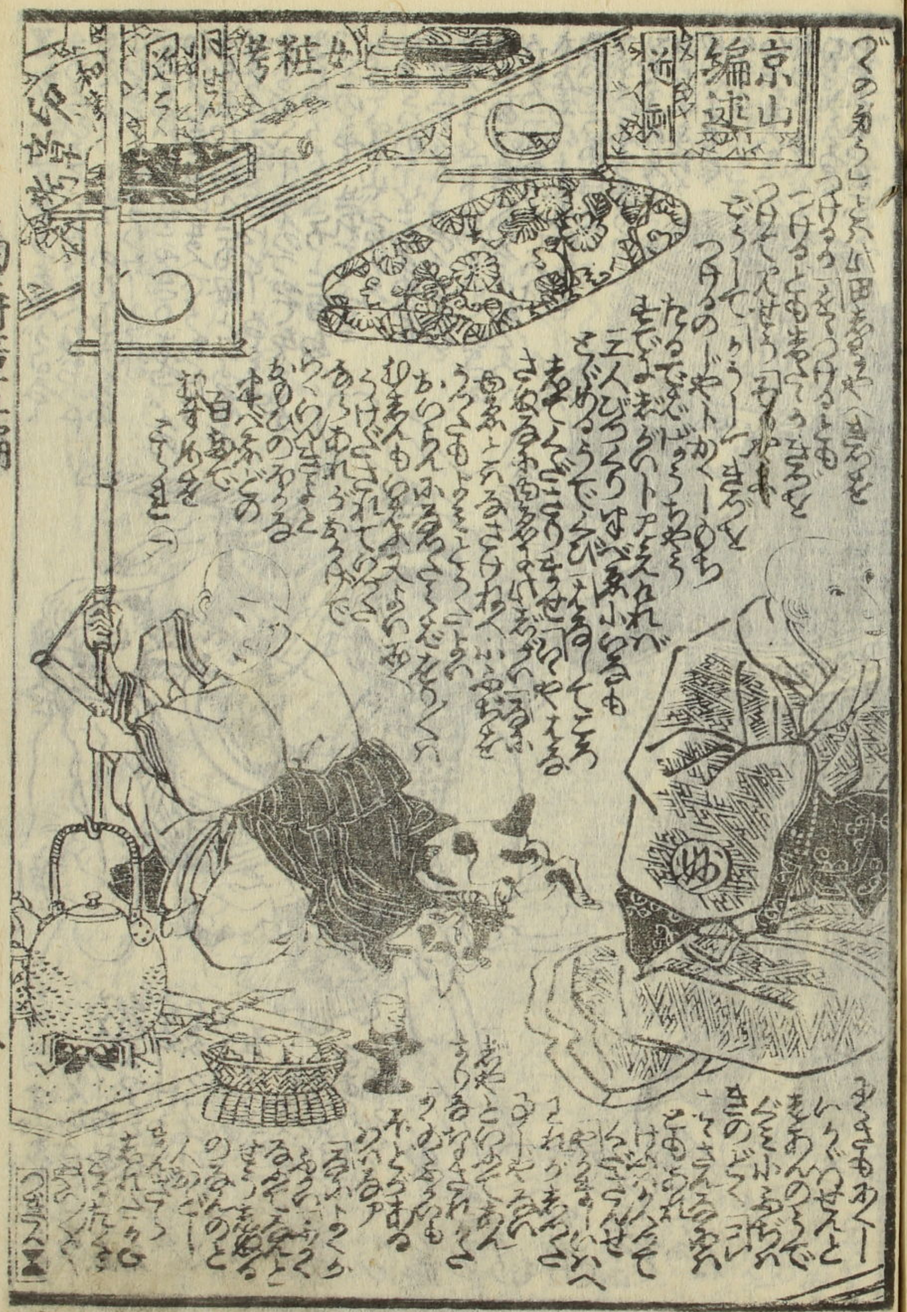
(七)ゑんくん
今のえそ
ごろをまふ
げる(六)
(八)そのさま
とらのこ
ゑそ
これこそ
なこあえきまう
の(四)

(九)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)

(十)ゑほうけさん
くくと
ぶんまでくの山
一ぱまくこゑるるがう
ふうつけそろく
ゆつさまるとどのこと
をわりせよく(五)



九



松

増補忠臣蔵　全六冊　晋米齋玉粒編
繪本千年山　全拾冊　北尾重政画
繪本武者鑑　全六冊　一陽齋前豊國画
花軍春錦繪　前篇六冊　後篇四冊　十返舎一九作　香蝶樓國貞画
昔舊在多土佐　全四冊　宝田千町選　歌川國芳画

江戸上町親仁橋角
山本平吉販

京山作
國貞画

天保十六年春

栄久堂上梓

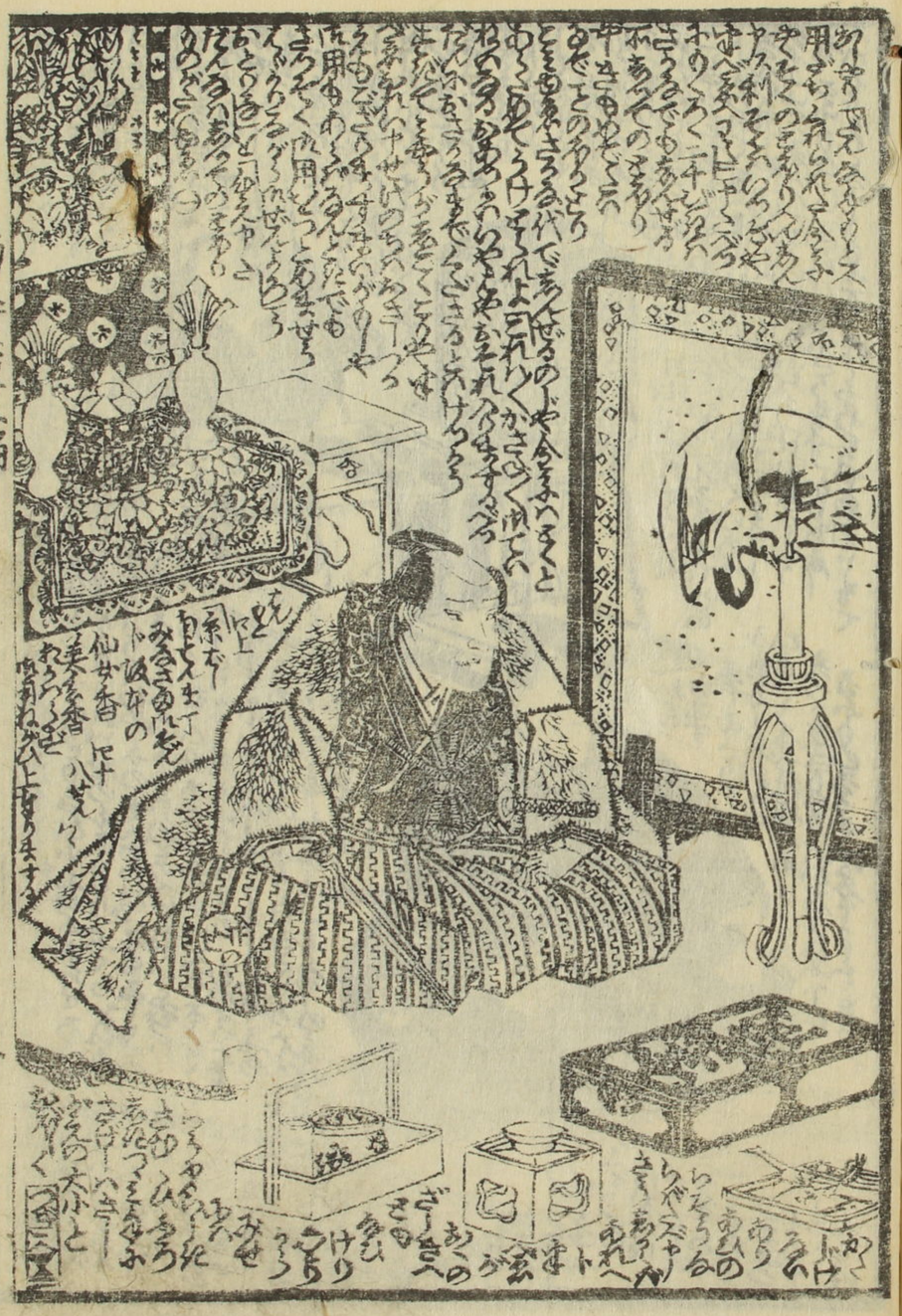
国貞画

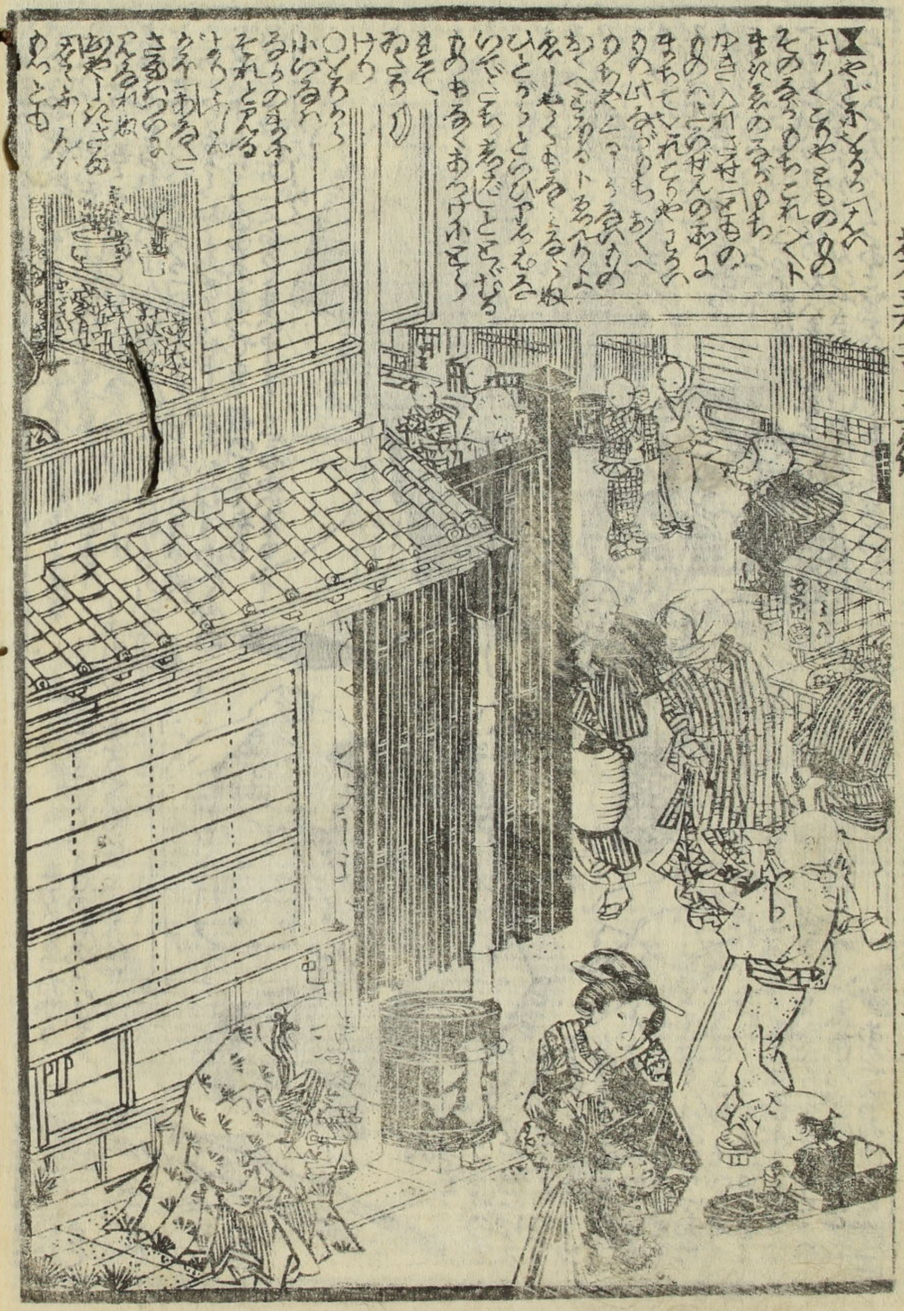
天保十癸寅

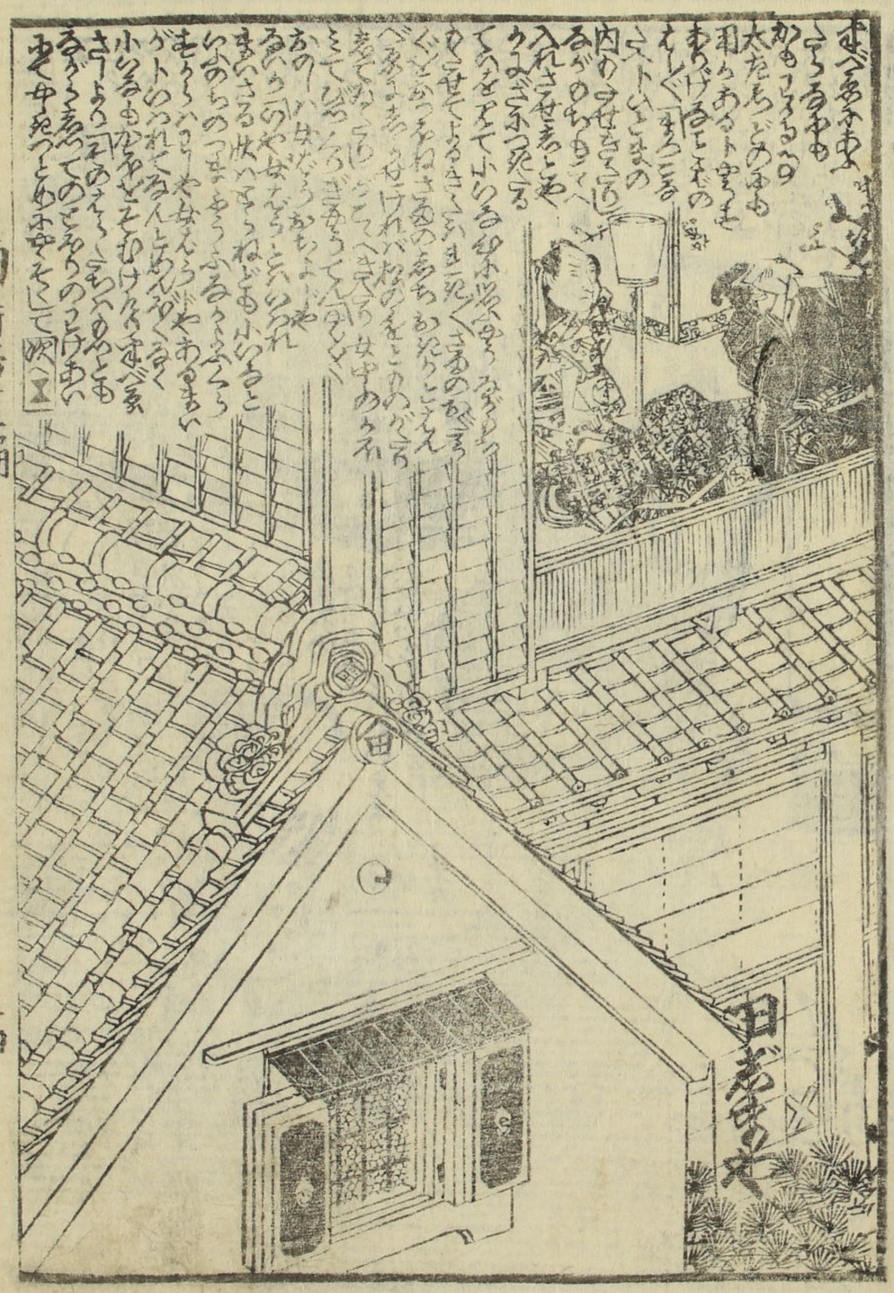
菊壽童五編下

東京 山本作 画

菊壽童五編

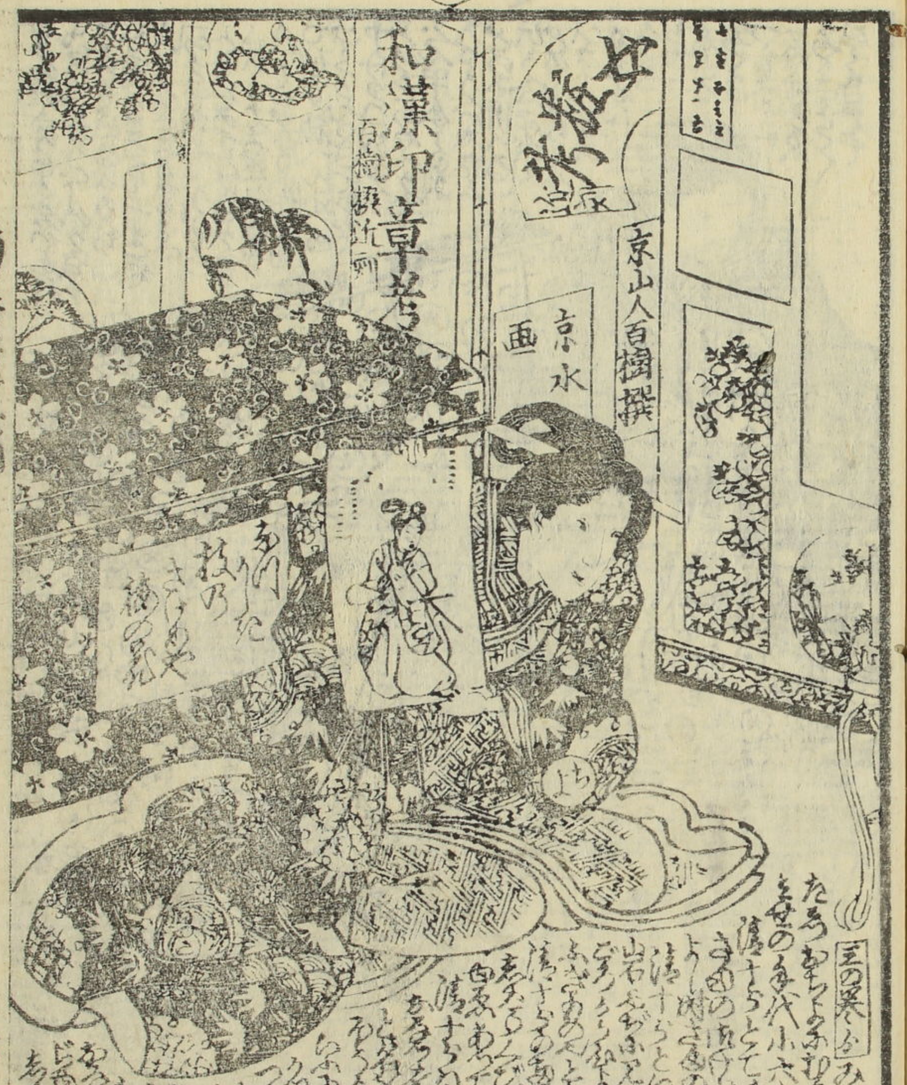


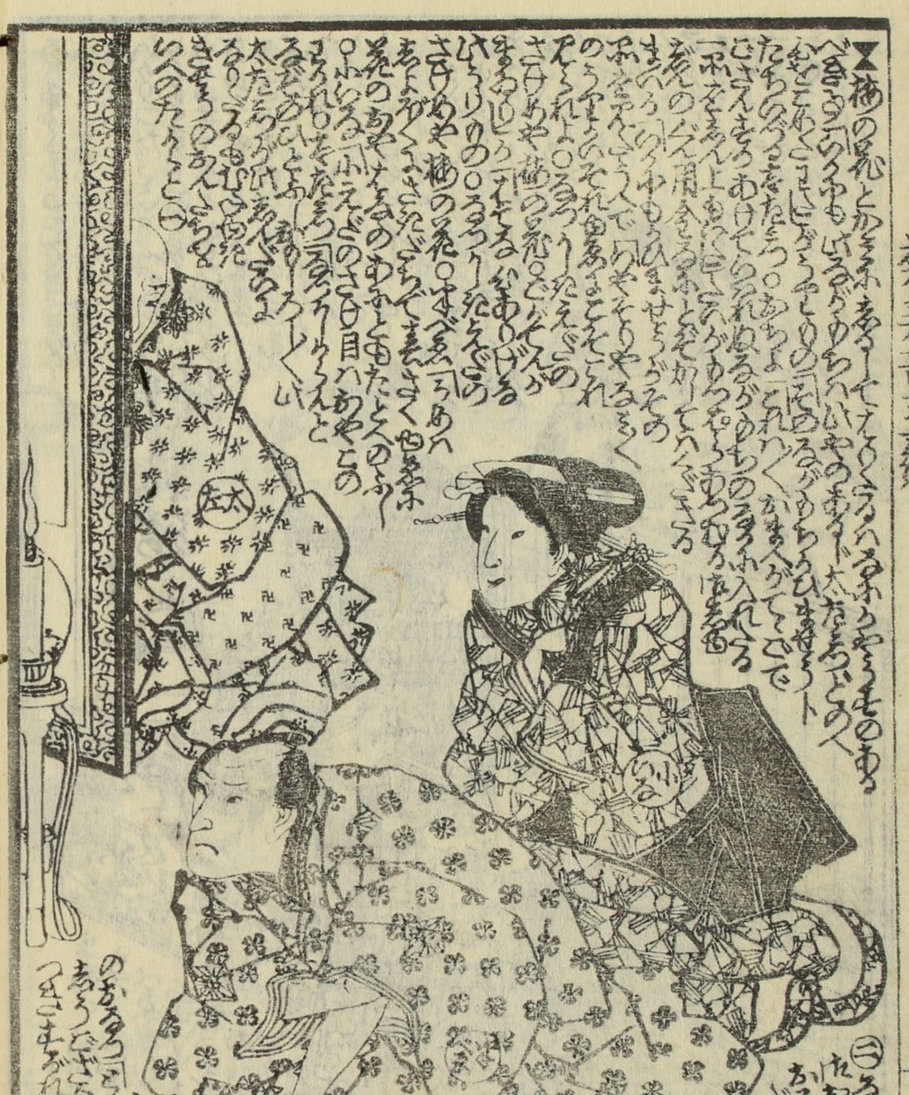


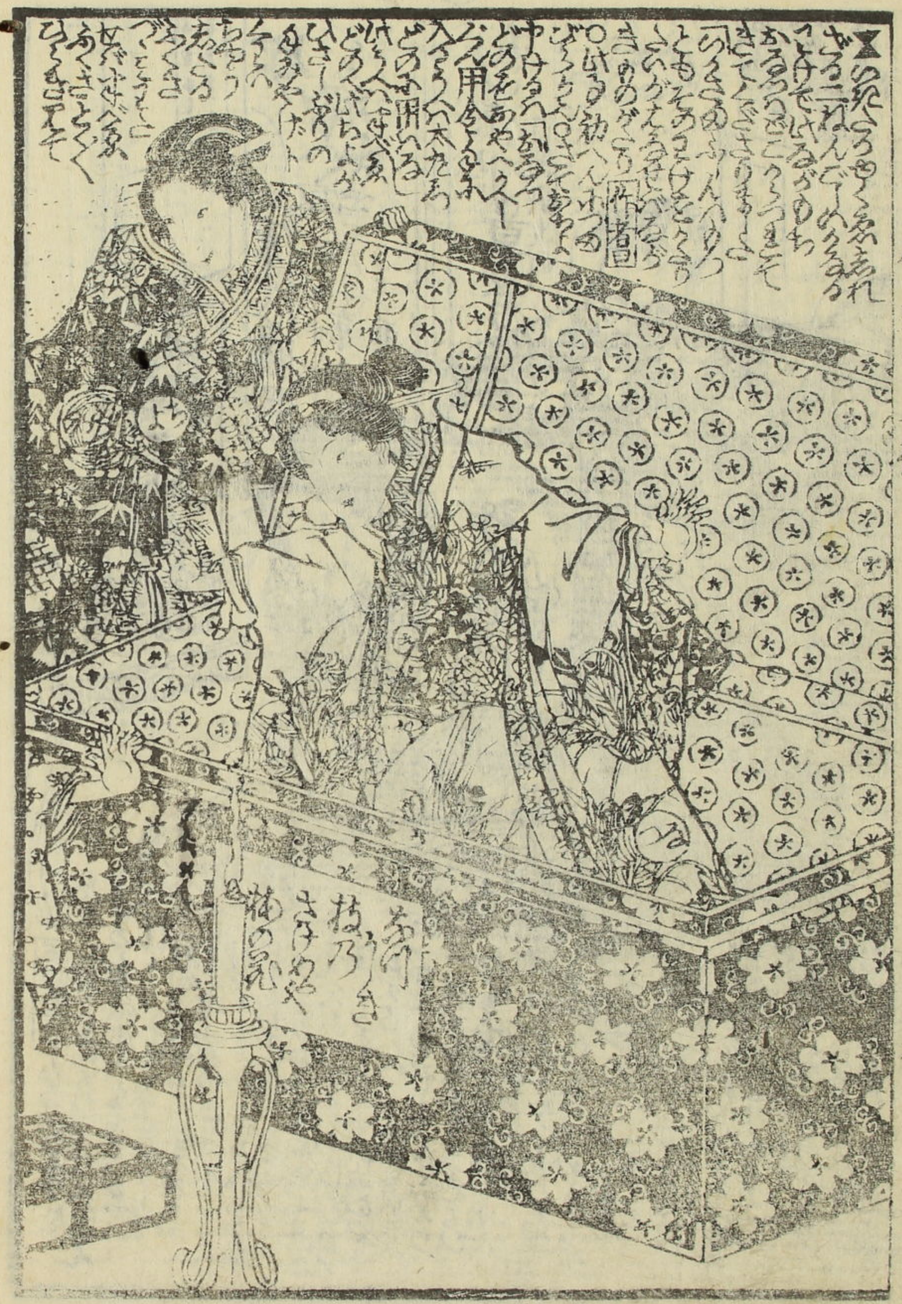


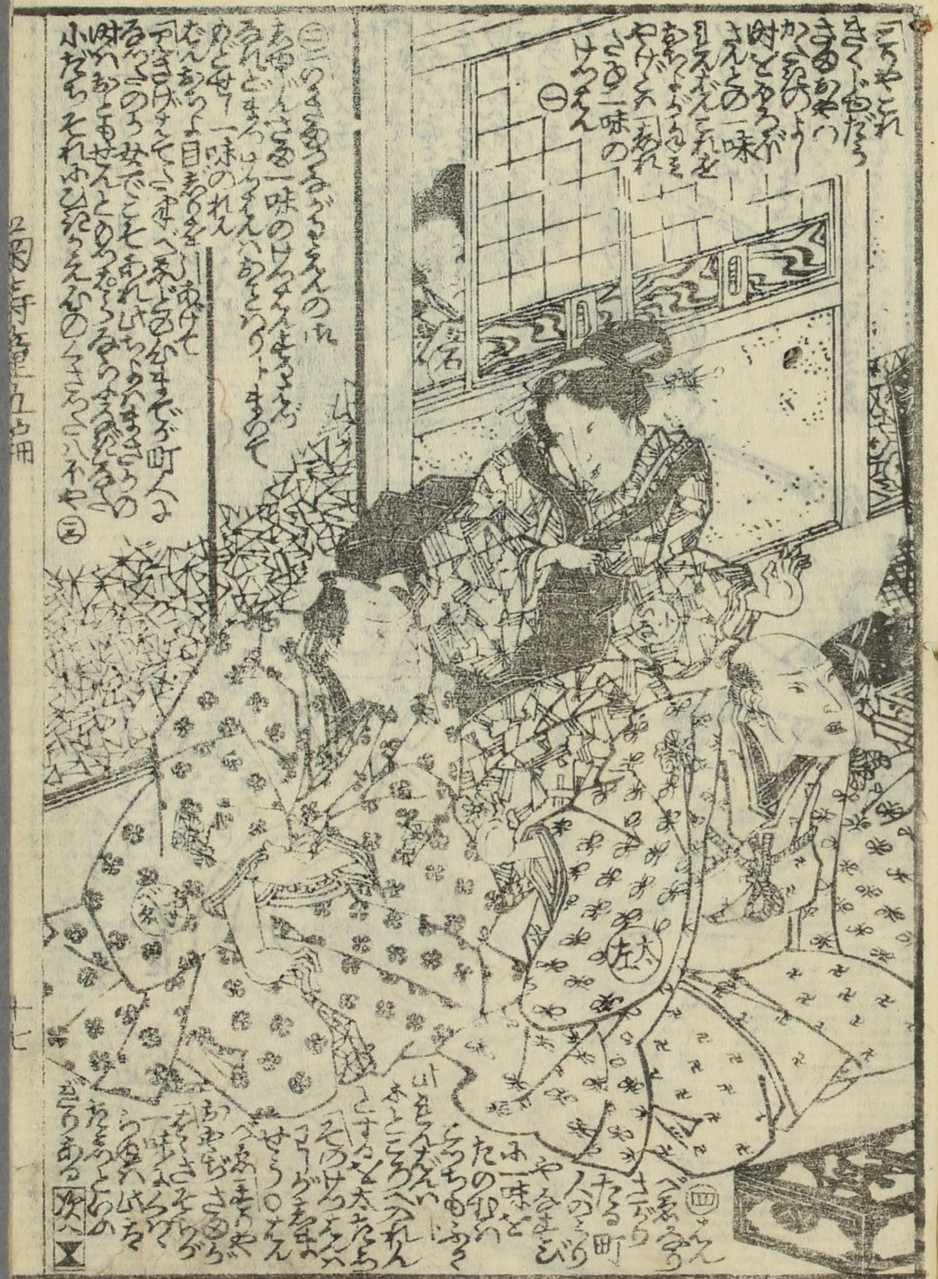
X
むかしのくにのくにのかみのせてゐたるさうにハ
ひさごのやうにくびれ
のくぼきをいふ
ありうきねのさとりめや梅の花
(二)ひとそろひ
(三)
(四)かぎ
(五)

(小)
(大)


和漢印章考
百樹撰
京山人百樹撰
京水画
女教訓


太左
小ぎく





(四)
(五)
(六)
(七)

(一)
(二)
(三)
(八)

井の役
石の役
六のみ
四

十
松
ち
よ
松

▲ゆりそろそろ小ぜるくへ
アをるさらざるゆんがる
○ちちくのゆくさおろくへ
ますすれんえすがらを
かんでおそみのめ
きくいちだう
さあそれ
つるぐる
あをふか
らぬもの
うちか(一)

(二)
ひとま
やくかる
しろさうがで
ござるトくろの
ちあうるくる
よおとのゆえを
あれれい
うんてん

(六)▲かくてえんべあいりみがれがひまそおろう
法十らかうまんへそるへくるおそれだくりゆそ
小ぬそぐまくへこくんどををろそくく
よろこび女房ともが
やまとにぐろくろ
えろくこるくおるつがぐそ
てさえもとようろこびそれい
ともわれるひがりみの
はへあがりこの女だこ
あのちよいのるとう
ちがふでやそだる
あんるかうまちよ
女の
山ぢち(七)

(三)
あのちくさ
とだえそろくろ
ロようがくく
くるる山ぢちのうが
ぐひ○をちくおとで
さんごをすれがらん
用舎の千あだそ
ぐぶの
小さぶ

(四)
うこふ
うけく
まちおが
まあてるうふたおのなとこうで
ゆうくとてくちさうけく(五)

(八)千あだ
あろうそ
さこのう
さやうろ
二れもも
ろんぐ千
ふまあでわの
のへめそ
そろくろ
んでくま
ありでたう
ぐさうす千
めぐらう千

菊壽童霞盃　初編ヨリ六編迄　山東庵京山作　香蝶樓國貞画

三國志画傳　初編ヨリ十編迄　十返舎一九作　歌川國安画

加々見山旧錦繪　全六冊　墨川亭雪麿作　歌川豊國画

國姓爺合戰　全六冊　墨川亭雪麿作　歌川國虎画

御誂染遠山鹿子　六編揃　柳亭種彦作　香蝶樓國貞画

此度の養老仙女香一包
右の通り美艶仙女香一包
そのうるほひ黒油美艶香
江戸吉原遊廓内自家本製

榮久堂　江戸通り町親仁橋角
山本平吉販

京山作
國貞画

菊壽童六編　京山作　國貞画